

東芝デジタル複合機

最新機能説明書

e-STUDIO2010AC

e-STUDIO2515AC/3515AC/4515AC/5015AC

e-STUDIO2518A/3518A/4518A/5018A

e-STUDIO5516AC/6516AC/7516AC

e-STUDIO6518A/8518A

© 2021, 2022 Toshiba Tec Corporation All rights reserved

本書は、著作権法により保護されており、東芝テック株式会社の承諾がない場合、本書のいかなる部分もその複写、複製を禁じます。


はじめに


このたびは弊社製品をお買い上げいただきまして、まことにありがとうございます。
この取扱説明書は、本機に搭載されている最新機能について説明しています。
これらの機能を使用する前に、本書をよくお読みください。また、これらの機能を最良の状態でお使いいただくために、本書をいつもお手元に置いて有効にご活用ください。

■ 本書の読みかた

□ 本文中の記号について

本書では、重要事項には以下の記号を付けて説明しています。これらの内容については必ずお読みください。

 **警告** 「誤った取り扱いをすると人が死亡する、または重傷*1を負う可能性があること」を示しています。

 **注意** 「誤った取り扱いをすると人が傷害*2を負う可能性、または物的損害*3のみが発生する可能性があること」を示しています。

注意 操作するうえでご注意いただきたい事柄を示しています。

補足 操作の参考となる事柄や、知っておいていただきたいことを示しています。

 関連事項を説明しているページを示しています。必要に応じて参照してください。

*1 重傷とは、失明やけが・やけど（高温・低温）・感電・骨折・中毒などで、後遺症が残るものおよび治療に入院・長期の通院を要するものを指します。

*2 傷害とは、治療に入院や長期の通院を要さない、けが・やけど・感電を指します。

*3 物的損害とは、財産・資材の破損にかかわる拡大損害を指します。

□ 本書の対象

本書は一般使用者および機器管理者向けの取扱説明書です。

□ 本書の対象機種について

本書の対象機種は、本文中で以下のように表記しています。

対象機種	本文中の表記
e-STUDIO2010AC	e-STUDIO5015AC Series
e-STUDIO2515AC/3515AC/4515AC/5015AC	
e-STUDIO2518A/3518A/4518A/5018A	e-STUDIO5018A Series
e-STUDIO5516AC/6516AC/7516AC	e-STUDIO7516AC Series
e-STUDIO6518A/8518A	e-STUDIO8518A Series

□ オプション機器について

使用可能なオプション機器は、本機の**かんたん操作ガイド**をご覧ください。

□ 画面と操作手順の説明について

本書では、Windowsでの画面および操作手順は、Windows 10を例に説明しています。

お使いの機種やオプション機器の装着状況、OSのバージョンやアプリケーションによっては、表示される画面が異なることがあります。

□ 本文中の初期値について

- 本書に記載している初期値は、標準的な使用環境の値です。導入時の環境に合わせて、初期値を変更している場合があります。なお、機種の違いにより初期値が異なるものは記載していません。
- 選択項目の初期値は、下線で表記しています。

□ 商標について

AirPrint, iPad, macOSは、米国およびその他の国で登録されたApple Inc.の商標です。
その他の商標については**安全にお使いいただくために**をご覧ください。

目次

はじめに.....	3
第1章 ホーム画面	
ホーム画面について.....	8
かんたんスキャン.....	8
ファクス設定.....	8
第2章 設定／登録機能	
ユーザ設定.....	10
ファクス設定.....	10
管理者設定.....	12
機器設定.....	12
USBケーブル印刷.....	15
付録.....	16
文字入力のしかた.....	16
リスト印字.....	17
第3章 TopAccess	
【管理者】タブ.....	20
【セットアップ】項目説明一覧.....	20
【セキュリティ】項目説明一覧.....	42
【保守】項目説明一覧.....	44
【アプリケーション】項目説明一覧.....	52
第4章 AirPrint機能	
TopAccessでAirPrint機能の設定をする.....	62
セキュリティ証明の期限が切れ、AirPrintが使用できない場合.....	62
AirPrint機能に関する注意事項.....	63
AirPrint Faxをお使いいただく際に.....	63
第5章 トラブルシューティング	
機体に関するトラブル.....	66
こんな画面が表示されたら.....	66
タッチパネルのメッセージ一覧.....	67
索引.....	69

1

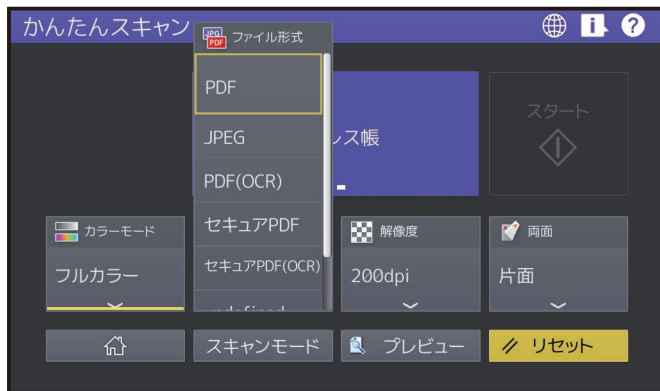
ホーム画面

ホーム画面について

■ かんたんスキャン

ファイル形式の設定

「ファイル形式」を押すと、スキャンデータのファイル形式を設定できます。



ファイル形式は以下の4種類があります。

- JPEG
- PDF
- セキュアPDF
- 高圧縮PDF

補足

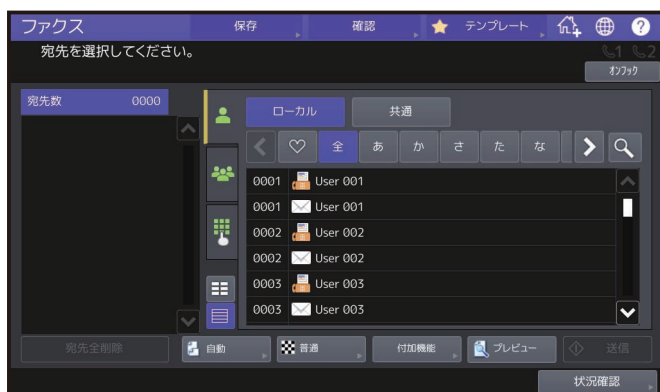
- JPEGはカラーモードで「フルカラー」または「グレースケール」を選択した場合にのみ設定できます。
- OCR機能を使用するにはOCRオプションが必要です。

■ ファクス設定

アドレス帳の表示

アドレス帳のリスト表示に名前のみ表示するモードを追加し、長い名前を確認しやすくしました。設定については以下を参照してください。

📖 P.10 「ファクス設定」

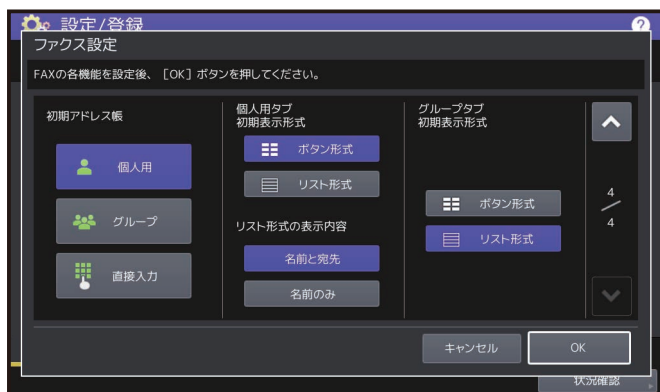


設定／登録機能

ユーザ設定

■ ファクス設定

ファクス設定にアドレス帳のリスト形式の表示内容設定を追加しました。



項目名	機能説明
解像度	<p>原稿の精細度に応じた読み取り解像度を選択します。</p> <ul style="list-style-type: none">• 普通：普通の大きさの文字による原稿に適しています。• 精細：小さな文字や細かい図などを含む原稿に適しています。• 高精細：精密な図などを含む原稿に適しています。 <p>補足</p> <p>宛先の装置に同じ解像度の受信能力がない場合は、解像度を自動的に変換して送信します。また、解像度を細かくするほど送信時間は長くなります。</p>
原稿モード	<p>原稿のタイプに応じた読み取りモードを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none">• 文字：文字や線画による原稿に適しています。• 文字/写真：文字と写真が混在している原稿に適しています。• 写真：写真原稿に適しています。 <p>補足</p> <p>文字/写真モードと写真モードは、文字モードよりも送信時間が長くなる場合があります。</p>
送信方法	<p>ファクスの送信方法です。</p> <ul style="list-style-type: none">• メモリ送信：原稿をいったんメモリへ蓄積してから自動的に送信します。メモリ送信は、1送信あたり最大1000ページ、100件まで予約することができます。• ダイレクト送信：直ちに宛先へ接続して原稿の送信を開始します。1ページごとに読み取りと送信を繰り返しますので、複数ページの原稿などは送信操作完了までに時間がかかりますが、宛先へ送信していることをその場で確認することができます。
濃度	<p>原稿の読み取り濃度の初期値を設定します。</p> <p>濃度を手動で設定する場合は、[Q]または[D]を押し任意の濃度を設定します。</p> <p>原稿に合わせて自動的に濃度を設定する場合は、[自動]を押します。</p>

項目名	機能説明
機密受信強制設定	<p>機密受信の設定を有効または無効にすることができます。週間予定が設定されている場合にのみ操作可能です。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 有効：機密受信を有効にします。 <p>補足</p> <p>週間予定で設定されている時刻に無効になります。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 無効：機密受信を無効にします。 <p>補足</p> <ul style="list-style-type: none"> • 週間予定で設定されている時刻に有効になります。 • 管理者パスワードが必要です。
受信元記録 (G3)	<p>G3ファクスの受信元情報付加印刷のON/OFFを切り替えます。これをONにする場合は、あらかじめ本機の自局名を登録しておく必要があります。</p>
発信元記録 (G3)	<p>G3ファクスの発信元情報付加送信のON/OFFを切り替えます。これをONにする場合は、あらかじめ本機の自局名を登録しておく必要があります。</p>
ECM (G3)	<p>G3ファクスのECM (Error Correction Mode) 通信のON/OFFを切り替えます。ECMとは、国際的に標準化された自動エラー訂正方式による通信モードのことです。ECM通信をONにすると、通信障害などにより送信データが影響を受けても、自動的に影響を受けた部分だけを再送信しますので、画像の乱れがない通信を行うことができます。</p> <p>補足</p> <ul style="list-style-type: none"> • 送信側および受信側ともにECM通信機能を装備していないとECM通信は行われません。 • ECM通信中に障害などで影響を受けた場合は、通信時間が正常時に比べ若干長くなります。また、ECM通信を行った場合も、回線の状況によってはエラーが発生することがあります。 • 通話にECM通信は使用できません。
複数宛先送信前確認	<p>複数の宛先指定時に確認画面を表示するかを設定します。</p>
プレビュー設定	<p>プレビュー機能を有効にすると、ファクス・インターネットファクスジョブを送信する前に、スキャンイメージを表示し確認することができます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • ON：この機能を有効にします。 • OFF：この機能を無効にします。
送信品質改善	<p>お使いの回線の通信品質によっては、V.34で送信に失敗する場合があります。この機能を使用すると、送信失敗を回避できることがあります。</p>
受信速度制限	<p>お使いの回線の通信品質によっては、V.34で受信に失敗する場合があります。この機能を使用すると、受信失敗を回避できることがあります。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 回線1：回線1の受信速度制限をONにするかを設定します。 • 回線2：回線2の受信速度制限をONにするかを設定します。
初期アドレス帳	<p>アドレス帳で初期表示するタブを選択します。</p>
個人用タブ初期表示形式	<p>アドレス帳の個人用タブの初期表示形式を選択します。</p>
リスト形式の表示内容	<p>アドレス帳のリスト表示形式を選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 名前と宛先：アドレス帳のリストに名前と宛先を表示します。 • 名前のみ：アドレス帳のリストに名前のみを表示します。長い名前が確認しやすくなります。
グループタブ初期表示形式	<p>アドレス帳のグループタブの初期表示形式を選択します。</p>

管理者設定

■ 機器設定

補足

機器設定メニューを表示する手順は、[設定管理ガイド](#)をご覧ください。

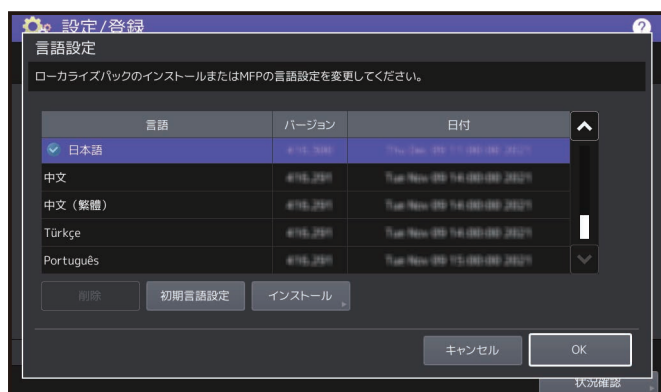
□ 表示言語を追加/削除する

標準でインストールされる言語パックにポルトガル語を追加しました。

補足

この設定は、**TopAccess**の [保守] タブ > [言語設定] > [現在の言語パックリスト] での設定にリンクしています。

📖 P.48 「現在の言語パックリスト」



補足

- 工場出荷時には、以下の言語パックが標準でインストールされています。

日本語	米語	英語	ドイツ語	フランス語
スペイン語	イタリア語	デンマーク語	フィンランド語	ノルウェー語
スウェーデン語	オランダ語	ポーランド語	ロシア語	中国語（簡体字）
中国語（繁体字）	トルコ語	ポルトガル語		

- 表示言語を追加する場合は、インストールしたい言語パックをあらかじめUSBメディアのルートに保存しておいてください。

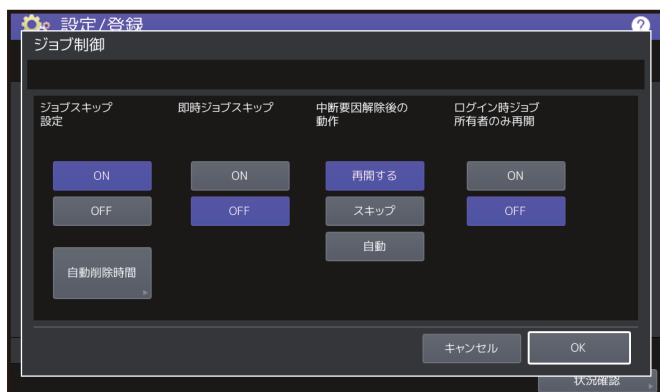
□ ジョブ制御を設定する

ジョブスキップ機能を変更しました。

補足

この設定は、**TopAccess**の [管理者] タブ > [セットアップ] > [一般設定] > [ジョブスキップ設定] での設定にリンクしています。

📖 P.20 「ジョブスキップ設定」



項目名	機能説明
ジョブスキップ設定	<ul style="list-style-type: none"> • ON：この機能を有効にします。 • OFF：この機能を無効にします。 • 自動削除時間：このボタンを押すと、スキップしたジョブを自動的に削除するまでの時間を設定できます。自動で削除しない場合は、[OFF]を押します。この設定は、[ジョブスキップ設定] が有効な場合のみ利用できます。
即時ジョブスキップ	<p>即時にジョブをスキップするかどうかを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • ON：この機能を有効にします。 • OFF：この機能を無効にします。
中断要因解除後の動作	<p>ジョブを中断した原因を解除した後の動作を選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 再開する：中断したジョブを自動的に再開します。 • スキップ：ジョブをスキップしたままにし、手動で対処します。 • 自動：ファクス受信印刷などの未定義ユーザのジョブのみを自動で再開します。
ログイン時ジョブ所有者のみ再開	<p>ユーザ認証が有効な場合に、ログインしたジョブの所有者のみがスキップしたジョブを再開できるようにするかどうかを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • ON：この機能を有効にします。 • OFF：この機能を無効にします。 <p>注意 ユーザ認証が無効な場合は、この設定にかかわらず誰でもスキップしたジョブを再開できます。</p>

補足

コピーや印刷が保留された原因を解除する方法については、**トラブルシューティングガイド** [ソフトウェア編] をご覧ください。

設定の組み合わせについて

ジョブ制御設定の一般的な組み合わせを表す以下の表を参考に、ジョブ制御を設定してください。

目的	ジョブスキップ設定	自動削除時間	即時ジョブスキップ	中断要因解除後の動作	ログイン時ジョブ所有者のみ再開	注意
印刷順を維持したい	OFF	-	-	-	-	中断したジョブを放置すると節電モードに入りません。中断解除後は、他者のジョブが自動で再開されます。
中断要因を解除した時にスキップしたジョブを自動で再開したい	ON	任意	OFF	再開する	任意	中断要因によっては自動で再開しない場合もあります。
中断ジョブを自動で再開したくない	ON	任意	ON	スキップ	任意	受信したファクスがスキップされた状態で放置される可能性があります。[中断要因解除後の動作]を「自動」に設定すると回避できます。
中断ジョブの再開操作をジョブの所有者に限定したい	ON	任意	ON	スキップ	ON	受信したファクスがスキップされた状態で放置される可能性があります。[中断要因解除後の動作]を「自動」に設定すると回避できます。
放置されたジョブがあっても、できるだけ早く節電状態に移行したい	ON	任意	ON	任意	任意	-
放置されたジョブを一定時間後に削除したい	ON	有効 (時間を選択)	ON	任意	任意	[即時ジョブスキップ]を「OFF」に設定すると、ジョブは中断されたまま削除されません。

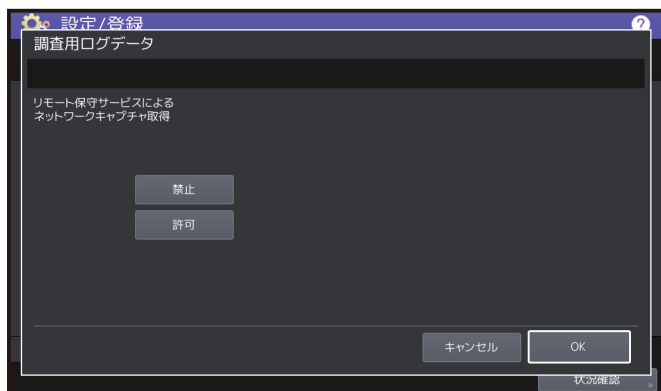
注意

以下の場合、ジョブ制御の設定にかかわらずジョブはスキップされずに中断状態のままとなります。

- 逐次コピー印刷中の中断
- お試しコピーの1部目（お試し部）印刷中の中断
- 割り込みコピー印刷中の中断

□ 調査用ログデータの取得を許可する

サービスエンジニアによる調査用ログデータの取得を許可するかどうかを設定します。



項目名	機能説明
禁止	調査用ログデータの取得を禁止します。
許可	調査用ログデータの取得を許可します。

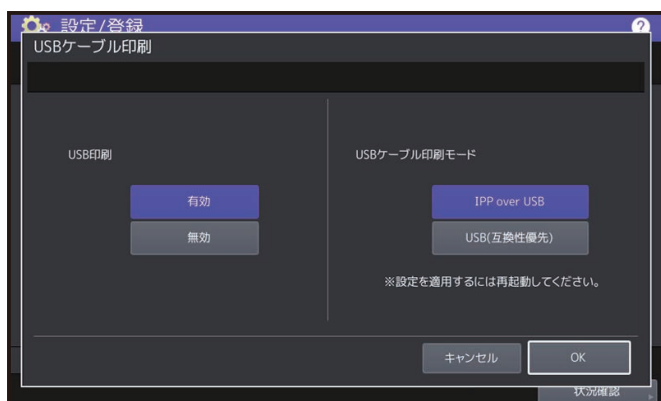
■ USBケーブル印刷

USBケーブル接続による印刷の有効／無効の設定を追加しました。

補足

この設定は、**TopAccess**の [管理者] タブ > [セットアップ] > [プリントサービス設定] > [USBケーブル印刷] での設定にリンクしています。

📖 P.40 「USBケーブル印刷の設定」

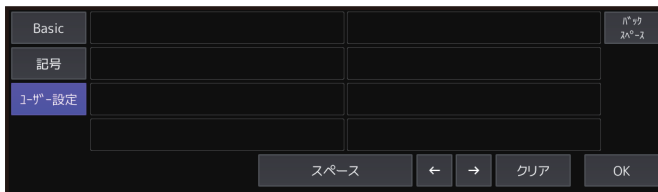
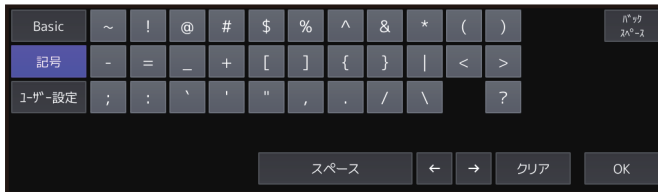




項目名	機能説明
USB印刷	USBケーブル印刷の有効／無効を設定します。
USBケーブル印刷モード	<ul style="list-style-type: none"> • IPP over USB : 通常はこのモードを使用します。 <p>補足 AirPrint機能を使用して印刷する場合は、このモードを選択してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> • USB (互換性優先) : 弊社複合機をすでにお使いの場合で、導入済みの複合機との互換性を優先する場合に使用します。

■ 文字入力のしかた

□ 文字入力画面

英語キーボード使用時とEメール入力時に使用できるユーザー設定キーボードを追加しました。



項目名	機能説明
[Basic] キー	Basicキーボードに切り替えます。
[Symbol] キー	記号キーボードに切り替えます。
[ユーザー設定] キー	ユーザー設定キーボードに切り替えます。あらかじめ登録した文字列や、E-mailアドレスなどを入力できます。 補足 ユーザー設定キーボードは TopAccess でのセットアップが必要です。詳しくは以下を参照してください。 📖 P.49 「カスタムキーボード設定」
[Caps Lock] キー	小文字入力と大文字入力を切り替えます。
[Shift] キー	押すと大文字が入力できます。
[スペース] キー	1文字分空けます。
 	カーソルを左右に移動します。
[クリア] キー	入力した文字をすべて削除します。
[OK] キー	入力画面を閉じます。
[バックスペース] キー	カーソルの前の文字を1文字ずつ削除します。

■ リスト印字

□ システム設定リスト (管理者)

一般

リスト項目	説明	ユーザ
ジョブ制御 - ジョブスキップ使用	ジョブスキップ機能の有効/無効	×
ジョブ制御 - 即時ジョブスキップ	即時ジョブスキップの有効/無効	×
ジョブ制御 - 中断要因解除後の動作	中断要因解除後の動作の設定	×
ジョブ制御 - ログイン時ジョブ所有者のみ再開	ログインしたジョブ所有者のみがスキップしたジョブを再開する機能の有効/無効	×
ジョブ制御 - 自動削除時間	スキップしたジョブを自動削除するまでの時間	×

ファクス設定

リスト項目	説明	ユーザ
アプリケーションへの受信転送設定- 受信転送の使用	ファクス受信転送の有効/無効	×
アプリケーションへの受信転送設定- バックアップ設定	受信したファクスのバックアップの有効/無効	×

ネットワーク設定 - セッション - SMBセッション

リスト項目	説明	ユーザ
サーバーのSMB 1.0サポート	SMB 1.0サーバー側の有効/無効	×
クライアントのSMB 1.0サポート	SMB 1.0クライアント側の有効/無効	×

ネットワーク設定 - セッション - BONJOURセッション

リスト項目	説明	ユーザ
Chrome OS プリント	Chrome OS印刷サービスの有効/無効	×

OFF DEVICE CUSTOMIZATION ARCHITECTURE

リスト項目	説明	ユーザ
SOAP - ポート使用	ポートの有効/無効	×
SOAP - ポート番号	ポート番号	×
SOAP - SSL/TLS使用	SSL/TLSの有効/無効	×
SOAP - SSL/TLSポート番号	SSL/TLSポート番号	×
REST - ポート使用	ポートの有効/無効	×
REST - ポート番号	ポート番号	×
REST - SSL/TLS使用	SSL/TLSの有効/無効	×
REST - SSL/TLSポート番号	SSL/TLSポート番号	×
セッションタイムアウト	外部環境との接続状態を継続する時間	×

TopAccess

■ [セットアップ] 項目説明一覧

- 📖 P.20 「一般設定」
- 📖 P.21 「ネットワーク設定」
- 📖 P.28 「ファクス設定」
- 📖 P.30 「MFP連携」
- 📖 P.40 「プリントサービス設定」
- 📖 P.40 「Off Device Customization Architecture設定」

補足

[セットアップ] メニューは [管理者] タブから、アクセスポリシーモードで管理権限が設定されているユーザがアクセスできます。
アクセス方法は**TopAccessガイド**を参照してください。

□ 一般設定

- 📖 P.20 「ジョブスキップ設定」

補足

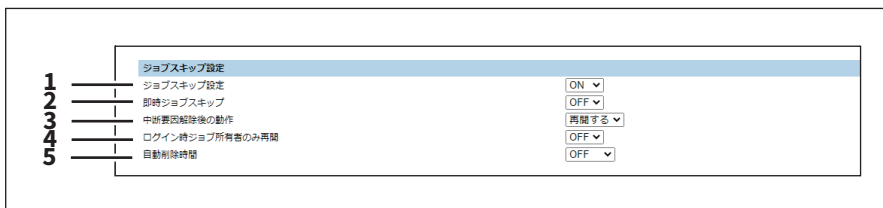
[一般] サブメニューは、[管理者] タブの [セットアップ] メニューからアクセスできます。
アクセス方法は**TopAccessガイド**を参照してください。
[セットアップ] メニューについては、以下を参照してください。
📖 P.20 「[セットアップ] 項目説明一覧」

ジョブスキップ設定

ジョブスキップ設定に [即時ジョブスキップ]、[中断要因解除後の動作]、[ログイン時ジョブ所有者のみ再開]、[自動削除時間] の設定を追加しました。

補足

この設定は、設定／登録の [管理者設定] > [ジョブ制御] > [ジョブスキップ設定] での設定にリンクしています。
📖 P.13 「ジョブ制御を設定する」



	項目名	機能説明
1	ジョブスキップ設定	印刷条件に合わないジョブをスキップする機能を有効にするか無効にするかを選択します。この機能を有効にすると、[即時ジョブスキップ]、[中断要因解除後の動作]、[ログイン時ジョブ所有者のみ再開] [自動削除時間] を設定できます。
2	即時ジョブスキップ	即時にジョブをスキップするかどうかを選択します。
3	中断要因解除後の動作	ジョブを中断した原因を解除した後の動作を選択します。 <ul style="list-style-type: none">• 再開する：中断したジョブを自動的に再開します。• スキップ：ジョブをスキップしたままにし、手動で対処します。• 自動：ファクス受信印刷などの未定義ユーザのジョブのみを自動で再開します。

	項目名	機能説明
4	ログイン時ジョブ所有者のみ再開	ユーザ認証が有効な場合に、ログインしたジョブの所有者のみがスキップしたジョブを再開できるようにするかどうかを選択します。 注意 ユーザ認証が無効な場合は、この設定にかかわらず誰でもスキップしたジョブを再開できます。
5	自動削除時間	スキップしたジョブを削除する時間を設定します。[OFF]を選択すると、削除されません。

□ ネットワーク設定

- 📖 P.21 「SMBの設定」
- 📖 P.26 「Bonjourの設定」
- 📖 P.27 「リモート操作設定 (VNC)」

補足

[ネットワーク] サブメニューは、[管理者] タブの [セットアップ] メニューからアクセスできます。アクセス方法は**TopAccessガイド**を参照してください。

[セットアップ] メニューについては、以下を参照してください。

- 📖 P.20 「[セットアップ] 項目説明一覧」

SMBの設定

SMBでは、SMBネットワークの各プロパティを設定し、Microsoft Windowsネットワークによる本機へのアクセスや、SMB印刷を有効にします。SMBを有効にすると、SMB印刷が利用可能になるほか、本機の共有フォルダを参照できるようになります。また、異なるサブネット間のファイル共有やプリンタ共有をWINSサーバーを使って解決している場合は、WINSサーバーアドレスを指定します。

The screenshot shows the SMB configuration interface with the following settings:

- SMB**
 - SMBサーバプロトコル: 有効
 - サーバーのSMB 1.0サポート: 有効
 - クライアントのSMB 1.0サポート: 有効
 - 制限: なし
 - NetBIOS名: []
 - ログオン
 - ワークグループ: Workgroup
 - ドメイン
 - プライマリドメインコントローラ: []
 - バックアップドメインコントローラ: []
 - デバイス名: []
 - パスワード: []
 - プライマリWINSサーバーアドレス: 0 0 0 0
 - セカンダリWINSサーバーアドレス: 0 0 0 0
 - スーパースリープモード時のホストアナウンスメント送信: 無効
- SMBサーバーの認証**
 - ゲストログオン: 有効
 - ユーザ名: []
 - パスワード: []
- SMBクライアントの認証**
 - SMBクライアントの認証: Kerberos/NTLMv1
- SMBサーバーのSMB署名**
 - クライアントの同意により通信にデジタル署名を行う
 - 常にサーバ側の通信にデジタル署名を行う
 - サーバの通信にデジタル署名を行わない
- SMBクライアントのSMB署名**
 - サーバの同意により通信にデジタル署名を行う
 - 常にクライアント側の通信にデジタル署名を行う
 - クライアントの通信にデジタル署名を行わない

	項目名	機能説明
1	SMBサーバプロトコル	SMBの有効／無効を選択します。 <ul style="list-style-type: none"> • 有効：SMBを有効にします。 • 無効：SMBを無効にします。
2	サーバーのSMB 1.0サポート	SMB 1.0サーバー側の有効／無効を選択します。 <ul style="list-style-type: none"> • 有効：SMB 1.0サーバーを有効にします。 • 無効：SMB 1.0サーバーを無効にします。
3	クライアントのSMB 1.0サポート	SMB 1.0クライアント側の有効／無効を選択します。 <ul style="list-style-type: none"> • 有効：SMB 1.0クライアントを有効にします。 • 無効：SMB 1.0クライアントを無効にします。
4	制限	SMBで制限を指定します。 <ul style="list-style-type: none"> • なし：SMBで制限しない場合に選択します。 • プリント共有：共有フォルダの参照のみ有効にし、本機のSMB印刷を無効にします。 • ファイル共有：SMB印刷のみ有効にし、本機の共有フォルダの参照を無効にします。
5	NetBIOS名	Windowsネットワーク上で表示される本機の名称を入力します。標準の設定では、「MFP<NICシリアル番号>」がNetBIOS名として設定されています。
	注意	NetBIOS名は、半角英数字と「-」（ハイフン）のみを使用して入力してください。それ以外の文字を使用して入力した場合は、警告メッセージが表示されます。
6	ログオン	本機が所属するワークグループ名またはドメイン名を入力します。 <ul style="list-style-type: none"> • ワークグループ：本機をワークグループに参加させる場合は、ワークグループ名を入力します。すべてのクライアントコンピュータは、ユーザ名やパスワードを使用せずに本機にアクセスすることができます。 • ドメイン：本機をドメインにログオンさせる場合は、ドメイン名を入力します。ドメインのメンバとしてログオンしていないクライアントコンピュータから本機にアクセスするには、ユーザ名とパスワードが必要になります。本機へのアクセスを制限したい場合は、ドメインで管理します。
	注意	ワークグループ名は、半角英数字と以下の記号「; : " < > + = ¥ ? , * #」以外の文字とひらがな、漢字を使用して入力してください。ドメイン名は、半角英数字と以下の記号「; : " < > + = ¥ ? , * #」以外の文字を使用して入力してください。それ以外の文字を使用して入力した場合は、警告メッセージが表示されます。
7	プライマリドメイン コントローラ	本機をドメインにログオンさせる場合に、プライマリドメインコントローラのサーバー名またはIPアドレスを指定します。半角英数字と記号（= ; # ¥を除く）で128文字まで入力できます。

	項目名	機能説明
8	バックアップドメイン コントローラ	本機をドメインにログオンさせる場合に、必要に応じてバックアップドメインコントローラのサーバー名またはIPアドレスを指定します。プライマリドメインコントローラが使用できない場合に、バックアップドメインコントローラが使用されます。半角英数字と記号(=;#¥を除く)で128文字まで入力できます。
	<p>注意</p> プライマリドメインコントローラおよびバックアップドメインコントローラに誤った設定を行うと、Windowsネットワーク内のプライマリドメインコントローラおよびバックアップドメインコントローラを最大4分程度検索するとともに、検索中はタッチパネルの「ネットワーク準備中」表示が消えません。この場合は、「ネットワーク準備中」表示が消えた後、プライマリドメインコントローラおよびバックアップドメインコントローラに正しい設定を行ってください。	
9	デバイス名	指定したドメインにログオンするための、本機のデバイス名(ログオンユーザ名)を入力します。半角英数字と記号("/¥[] ; = , + * ? < > を除く)で128文字まで入力できます。
10	パスワード	指定したデバイス名(ログオンユーザ名)のパスワードを入力します。半角英数字と記号で128文字まで入力できます。
11	プライマリWINSサーバーアドレス	WINSサーバーを使用して本機のNetBIOS名およびワークグループ名を解決する必要がある場合に、プライマリWINSサーバーのIPアドレスを指定します。異なるサブネットからNetBIOS経由でアクセスしたい場合に設定します。
	<p>補足</p> TCP/IPの設定で[WINSサーバーアドレス取得] オプションを有効にした場合は、DHCPサーバーからプライマリおよびセカンダリWINSサーバーアドレスを取得することができます。	
12	セカンダリWINSサーバーアドレス	WINSサーバーを使用して本機のNetBIOS名およびワークグループ名を解決する必要がある場合に、必要に応じてセカンダリWINSサーバーのIPアドレスを指定します。プライマリWINSサーバーが使用できない場合に、セカンダリWINSサーバーが使用されます。
	<p>補足</p> TCP/IPの設定で[WINSサーバーアドレス取得] オプションを有効にした場合は、DHCPサーバーからプライマリおよびセカンダリWINSサーバーアドレスを取得することができます。	
	<p>注意</p> [プライマリWINSサーバーアドレス] および [セカンダリWINSサーバーアドレス] に、「0.0.0.0」を入力した場合は、WINSの設定は無効になります。	
13	スーパースリープモード時のホストアナウンスメント送信	スーパースリープモード時でも、Windowsコンピュータの「ネットワーク」フォルダ内に本機のアイコンを表示します。 <ul style="list-style-type: none"> • 無効：スーパースリープモード時のホストアナウンスメント送信を無効にします。 • 有効：スーパースリープモード時でも、Windowsコンピュータの「ネットワーク」フォルダ内に本機のアイコンを表示します。
	<p>注意</p> 本機のスーパースリープモードが[無効]の場合、本設定に関係なくWindowsコンピュータの「ネットワーク」フォルダ内に本機のアイコンを表示します。	
14	ゲストログオン	ゲストユーザがSMBサーバーにログオンできるかどうかを選択します。初期値は[有効]に設定されています。

	項目名	機能説明
15	ユーザ名	[ゲストログオン] が [無効] の場合、SMBサーバーにログオンするためのユーザ名を入力します。半角の英数字と記号 (" / ¥ [] : ; = , + * ? < > を除く) で32文字まで入力できます。
	注意	ユーザ名を変更する前に本機のSMBサーバーに接続した場合、Windowsコンピュータにユーザ名およびパスワードの資格情報がキャッシュされていますので、資格情報をクリアするためにWindowsコンピュータを再起動してください。
16	パスワード	[ゲストログオン] が [無効] の場合、指定したユーザ名のパスワードを入力します。半角の英数字と記号で128文字まで入力できます。
	注意	パスワードを変更する前に本機のSMBサーバーに接続した場合、Windowsコンピュータにユーザ名およびパスワードの資格情報がキャッシュされていますので、資格情報をクリアするためにWindowsコンピュータを再起動してください。
17	SMBクライアントの認証	SMBクライアントの認証方法を設定します。 <ul style="list-style-type: none"> • Kerberos/NLTMv2 : Kerberos/NLTMv2認証を使用してSMBサーバーに接続する場合に選択します。Kerberos認証に失敗した場合はNLTMv2認証を行います。 • Kerberos/NLTMv1 : Kerberos/NLTMv1認証を使用してSMBサーバーに接続する場合に選択します。Kerberos認証に失敗した場合はNLTMv1認証を行います。 • Kerberos : Kerberos認証を使用してSMBサーバーに接続する場合に選択します。 • NLTMv2 : NLTMv2認証を使用してSMBサーバーに接続する場合に選択します。 • NLTMv1 : NLTMv1認証を使用してSMBサーバーに接続する場合に選択します。
	注意	Mac OS X 10.10以降のSMBサーバーは、NLTMv1認証に対応していません。

	項目名	機能説明
18	SMBサーバのSMB署名	<p>クライアントが本機の共有フォルダにアクセスする場合など、クライアントから本機にSMBでアクセスする際に、SMB署名を使用するかどうかを設定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • クライアントの同意により通信にデジタル署名を行う：クライアントがデジタル署名を使用してSMB通信した場合のみ、デジタル署名を使ってSMB通信を保護します。クライアントがデジタル署名を使用していない場合は、デジタル署名を使用せずにSMB通信を行います。 • 常にサーバ側の通信にデジタル署名を行う：クライアントがデジタル署名を使用してSMB通信した場合のみ、本機と通信ができるようにします。クライアントがデジタル署名を使用せずに本機にSMB通信した場合は、本機とSMB通信することはできません。 • サーバの通信にデジタル署名を行わない：クライアントがデジタル署名を使わずにSMB通信した場合のみ、本機と通信ができるようにします。クライアントが常にデジタル署名を使用してSMBサーバにアクセスするよう設定されている場合は、本機とSMB通信することはできません。
	<p>注意</p> <p>クライアントコンピュータでSMBクライアントのSMB署名の設定がどのように設定されているかわからない場合は、[クライアントの同意により通信にデジタル署名を行う]を設定してください。誤ったSMB署名の設定を行うと、SMB通信ができなくなる恐れがあります。</p>	
19	SMBクライアントのSMB署名	<p>ネットワークフォルダにスキャンデータを保管する場合など、本機からSMBサーバにアクセスする際に、SMB署名を使用するかどうかを設定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • サーバの同意により通信にデジタル署名を行う：通信するSMBサーバのSMB署名の設定が有効の場合のみ、デジタル署名を使ってSMB通信を保護します。通信するSMBサーバのSMB署名の設定が無効の場合は、デジタル署名を使用せずにSMB通信を行います。 • 常にクライアント側の通信にデジタル署名を行う：常にデジタル署名を使用してSMBサーバとSMB通信を行います。通信するSMBサーバのSMB署名の設定が無効の場合は、SMBサーバと通信することはできません。 • クライアントの通信にデジタル署名を行わない：デジタル署名を使用せずにSMBサーバとSMB通信を行います。通信するSMBサーバのSMB署名の設定が有効の場合は、SMBサーバと通信することはできません。
	<p>注意</p> <ul style="list-style-type: none"> • 通信するSMBサーバでSMBサーバのSMB署名の設定がどのように設定されているかわからない場合は、[サーバの同意により通信にデジタル署名を行う]を設定してください。誤ったSMB署名の設定を行うと、SMB通信ができなくなる恐れがあります。 • Windows Server 2012以降では、デフォルトの設定で常にサーバ側の通信にデジタル署名を行うよう設定されています。Windows Server 2012以降とSMB通信を行う場合は、[サーバの同意により通信にデジタル署名を行う] または [常にクライアント側の通信にデジタル署名を行う] を設定してください。 	

Bonjourの設定

macOSやWindows OSなどのBonjour (mDNS) の有効/無効を設定します。

	項目名	機能説明
1	Bonjour使用	Bonjourの有効/無効を選択します。初期値は [有効] に設定されています。
2	Link-Localホスト名	本機のDNS名を入力します。半角英数字と記号 (= ; # ¥を除く) で127文字まで入力できます。
3	サービス名	Bonjourネットワークに表示される本機の名称を入力します。半角英数字と記号 (= ; # ¥を除く) で63文字まで入力できます。
4	Chrome OSプリント	Chrome OS印刷サービスの有効/無効を選択します。初期値は [有効] に設定されています。

リモート操作設定 (VNC)

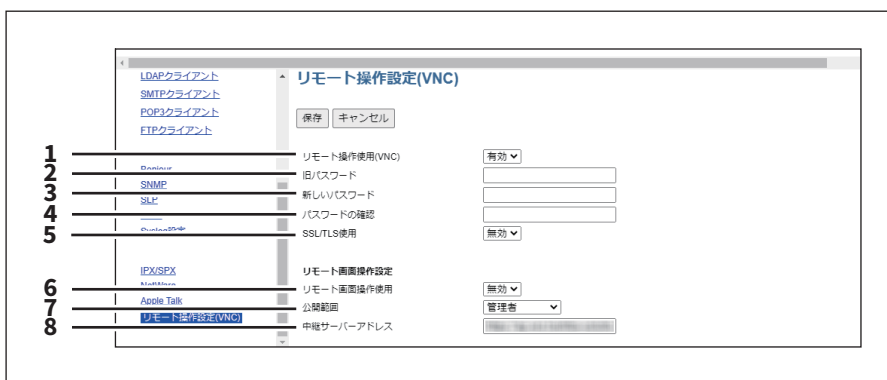
タブレットやスマートフォンなどのモバイル端末やコンピューターを使って操作パネルを見たり操作できます。

注意

- このリモート操作機能の初期パスワードは「d9kvgn」です。必ず変更してから、この機能を使用してください。パスワードは、6文字以上8文字以下の英数字で指定してください。
- リモート操作できるモバイル端末やコンピューターは1台のみです。

補足

- リモート操作するには、Windows 8.1以降でUltraVNC（クライアントソフトウェア）をお使いいただくことをお勧めします。
- リモート操作が有効な場合は、本機はスリープモードに移行できません。
- リモート操作中のMFPのタッチパネル左下に、「操作パネル共有中」と表示されます。



項目名	機能説明
1 リモート操作使用 (VNC)	リモート操作の有効/無効を選択します。 <ul style="list-style-type: none"> 有効：リモート操作を有効にします。 無効：リモート操作を無効にします。
2 旧パスワード	リモート操作の旧パスワードを入力します。
3 新しいパスワード	リモート操作の新パスワードを入力します。
4 パスワードの確認	リモート操作の新パスワードを再入力します。
5 SSL/TLS使用	リモート操作時にSSL (Secure Sockets Layer) /TLS (Transport Layer Security) を使用するを選択します。 <ul style="list-style-type: none"> 有効：SSL/TLSを有効にします。 無効：SSL/TLSを無効にします。
6 リモート画面操作使用	リモート画面操作機能の有効/無効を選択します。 <ul style="list-style-type: none"> 有効：リモート画面操作を有効にします。 無効：リモート画面操作を無効にします。 <p>注意 「リモート画面操作使用」については、サービスエンジニアまたは弊社販売店にお問い合わせください。</p>
7 公開範囲	リモート画面操作機能の公開範囲を選択します。 <ul style="list-style-type: none"> 管理者：管理者を許可します。 一般ユーザー：一般ユーザーを許可します。
8 中継サーバーアドレス	リモート画面操作に使用する中継サーバーのIPアドレス/ポート番号を入力します。

□ ファクス設定

📖 P.28 「アプリケーションへの受信転送設定」

📖 P.29 「ボックス設定（アプリケーションへの受信転送設定）」

補 足

[ファクス] サブメニューは、[管理者] タブの [セットアップ] メニューからアクセスできます。アクセス方法は**TopAccessガイド**を参照してください。

[セットアップ] メニューについては、以下を参照してください。

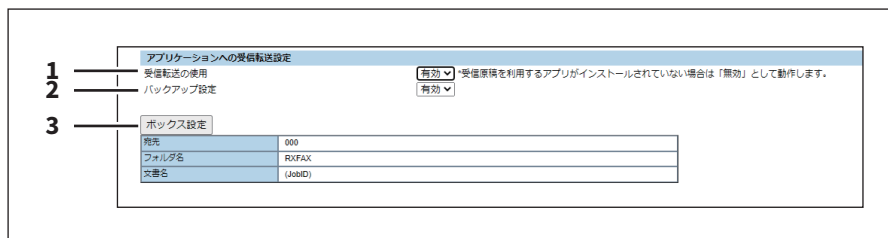
📖 P.20 「[セットアップ] 項目説明一覧」

アプリケーションへの受信転送設定

受信原稿（ファクスで受信した画像ファイル）とアプリケーションの動作に利用可能な受信情報（メタデータ）をアプリケーションのストレージ領域に保存するかを設定します。アプリケーションの詳細については、サービスエンジニアまたは弊社販売店にお問い合わせください。

注 意

受信原稿を利用するアプリケーションが本機にインストールされていない、またはアプリケーションの実行許可が無効に設定されている場合は、使用できません。



	項目名	機能説明
1	受信転送の使用	アプリケーションのストレージ領域に受信原稿を保存する場合は、[有効] に設定します。初期値は [無効] に設定されています。 注 意 [受信転送の使用] を [有効] に設定すると、他の転送設定が [有効] に設定されている場合であってもアプリケーションへの受信転送設定が優先されます。
2	バックアップ設定	指定したボックスに受信原稿をバックアップとして保存する場合は、[有効] に設定します。初期値は [有効] に設定されています。 補 足 [受信転送の使用] が [有効] に設定されている場合に表示されます。
3	[ボックス設定] ボタン	受信原稿を保存するボックスを変更する場合やフォルダ名を変更する場合にクリックします。クリックすると [ボックス設定] 画面が表示されます。 補 足 [バックアップ設定] が [有効] に設定されている場合に、設定を変更することができます。

ボックス設定（アプリケーションへの受信転送設定）

受信原稿をバックアップする宛先を設定します。

注意

保存可能な文書数は1ボックスまたは1フォルダあたり最大400文書、構成可能なページ数は1文書あたり最大200ページです。保存可能な文書数を超過して保存しようとした場合、ファイリングボックスへの保存に失敗します。ボックスまたはフォルダ内の文書を定期的に削除するか、文書保存期間を設定して自動で削除してください。

	項目名	機能説明
1	宛先	受信原稿を保存するボックスを設定します。 ボックス番号 受信原稿を保存するボックス番号を選択します。初期値は「000：共有ボックス」です。 パスワード ボックスにパスワードが設定されている場合は、パスワードを入力します。 パスワードの確認 確認のためにパスワードを再入力します。
2	フォルダ名	受信原稿を保存するボックス内のフォルダ名を入力します。64文字まで入力できます。
3	文書名	複合機が自動的に付けるジョブごとの番号（ジョブID）が文書名として表示されます。文書名は、変更できません。

□ MFP連携

MFP連携の各機能の設定画面をメニュー内でまとめました。

[共通設定] 画面で設定した連携するMFPの登録情報は各機能で共有できます。

📖 P.31 「共通設定」

📖 P.32 「共通アドレス張」

📖 P.33 「ユーザ管理情報の共有」

📖 P.35 「共有ホーム」

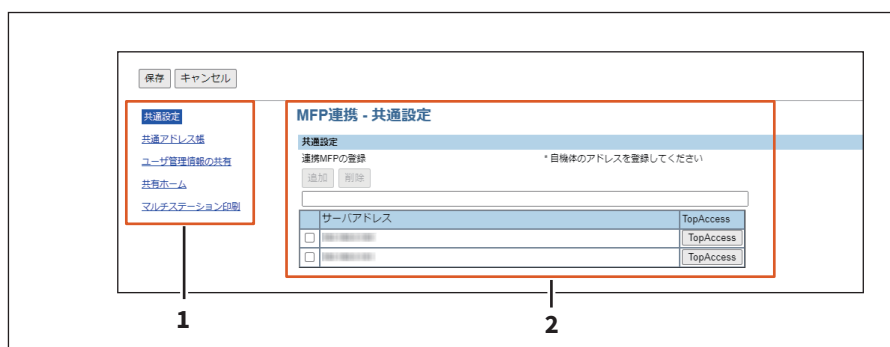
📖 P.37 「マルチステーション印刷」

補 足

[MFP連携] サブメニューは、[管理者] タブの [セットアップ] メニューからアクセスできます。アクセス方法は**TopAccessガイド**を参照してください。

[セットアップ] メニューについては、以下を参照してください。

📖 P.20 「[セットアップ] 項目説明一覧」



	項目名	機能説明
1	メニューエリア	MFPの連携に必要な機能名をクリックします。
2	設定エリア	メニューエリアで選択した機能を設定します。 注意 [マルチステーション印刷] 機能を使用するには、マルチステーション印刷オプションが必要です。詳細については、販売店またはサービスエンジニアにお問い合わせください。

共通設定

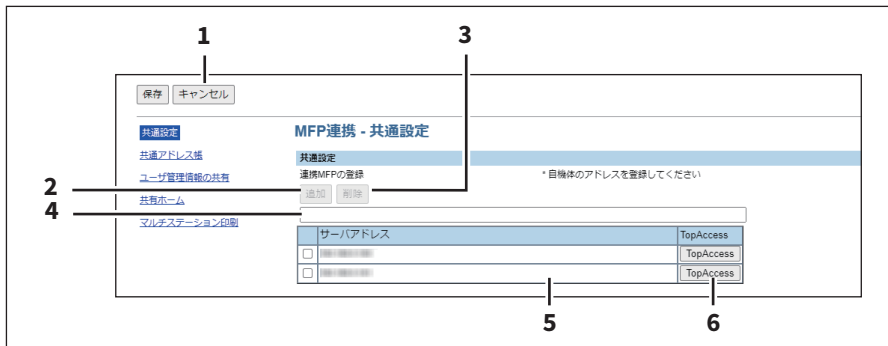
連携させたい複数のMFPをこの画面でまとめて登録できます。

注意

連携するMFPとして本機は必ず登録してください。

補足

[共通設定] 画面では [保存] ボタンをクリックする必要はありません。



	項目名	機能説明
1	[キャンセル] ボタン	設定を中止します。
2	[追加] ボタン	連携するMFPを登録します。 直下の入力ボックスに連携するMFPのIPアドレスまたはホスト名を入力し、[追加] ボタンをクリックして登録します。最大10台まで登録できます。
3	[削除] ボタン	下のリストで選択したMFPを削除します。
4	入力ボックス	登録するMFPのIPアドレスまたはホスト名を入力します。
5	サーバアドレス	登録したMFPのアドレスを表示します。
6	[TopAccess] ボタン	当該MFPのTopAccessを起動します。

共通アドレス帳

連携するMFPで共有するアドレス帳を設定します。設定は、リストに登録されているMFPに対して適用されます。

[共通設定を使用] を選択すると、共通設定で登録した連携MFPの情報を共有できます。

注意

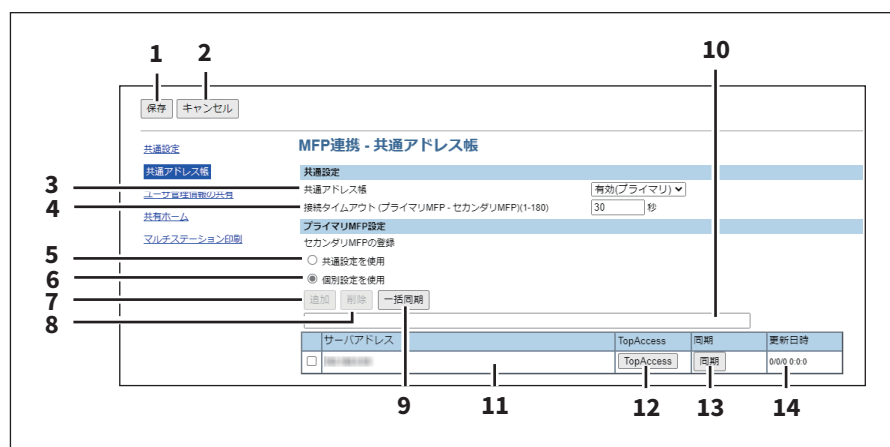
[共通設定を使用] を選択する場合は、[共通設定] 画面でMFPをあらかじめ登録してください。

📖 P.31 「共通設定」

補足

この [共通アドレス帳] の設定は、[登録] タブ > [アドレス帳] > [共通設定] とリンクしています。

[共通設定] については**TopAccessガイド**を参照してください。



項目名	機能説明
1 [保存] ボタン	設定した情報を登録します。
2 [キャンセル] ボタン	設定を中止します。
3 共通アドレス帳	<p>他のMFPと共通アドレス帳を同期管理する場合に、本機をプライマリとするかセカンダリとするかを設定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 無効：同期しません。 • 有効 (プライマリ)：本機をプライマリとして同期します。 • 有効 (セカンダリ)：本機をセカンダリとして同期します。 <p>注意</p> <p>[有効 (プライマリ)] として設定されているMFPにセカンダリMFPとして登録されているMFPでは、共通アドレス帳の設定が [有効 (セカンダリ)] として設定されている場合に、プライマリMFPから共通アドレス帳を同期します。</p>
4 接続タイムアウト	プライマリMFPとセカンダリMFPが接続できない場合に、通信を終了するタイムアウト時間を入力します。1～180秒の範囲で設定します。
5 共通設定を使用	[共通設定] 画面で登録したMFPの情報を使用して下記リストを自動更新します (リストは変更できません)。本機自身では [TopAccess] と [同期] ボタンは利用できません。
6 個別設定を使用	下記リストに登録したMFPの情報を使用します。
7 [追加] ボタン	新しいセカンダリMFPを追加します。直下の入力ボックスに同期対象のセカンダリMFPのIPアドレスまたはホスト名を入力し、[追加] ボタンをクリックして登録します。最大10台まで登録できます。

	項目名	機能説明
8	[削除] ボタン	セカンダリMFP一覧で選択しているMFPを削除します。
9	[一括同期] ボタン	登録されているすべてのセカンダリMFPの共通アドレス帳を本機の情報に同期します。
10	入力ボックス	セカンダリMFPを登録するときに、IPアドレスまたはホスト名を入力します。
11	サーバーアドレス	登録したMFPのアドレスを表示します。
12	[TopAccess] ボタン	TopAccessを起動します。
13	[同期] ボタン	該当のセカンダリMFPの共通アドレス帳を本機の情報に同期します。
14	[更新日時]	前回の更新日時を表示します。

ユーザ管理情報の共有

ユーザ管理情報の共有設定を変更します。

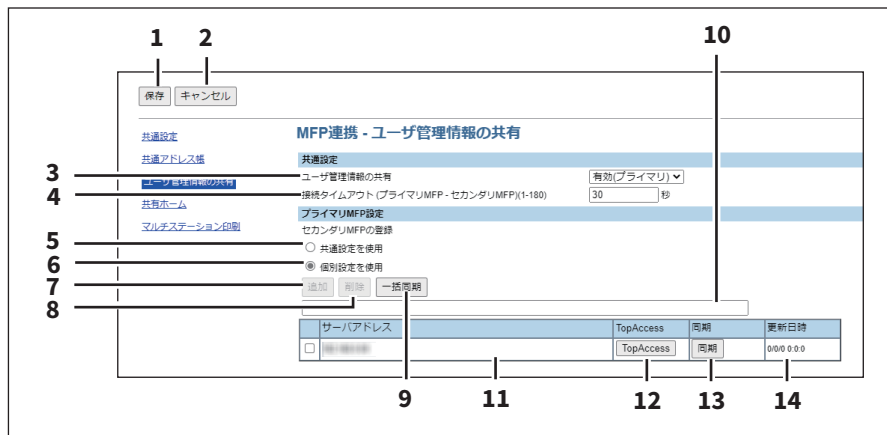
[共通設定を使用] を選択すると、共通設定で登録した連携MFPの情報を共有できます。

注意

- [共通設定を使用] を選択する場合は、[共通設定] 画面でMFPをあらかじめ登録してください。
P.31「共通設定」
- 最大10,000人のユーザ情報を同期管理できますが、実質的に同期管理できる最大ユーザ数は2,000人を推奨します。
- セカンダリMFPのユーザ管理画面では、ユーザ情報を作成、編集、削除できません。

補足

- 連携するMFPの情報は、[ユーザ管理] タブ> [共通設定] のMFP情報にリンクしています。
[共通設定] については**TopAccessガイド**を参照してください。
- [ユーザ管理情報の共有] と [接続タイムアウト] の設定は、[管理者] タブ> [セキュリティ] > [認証] > [ユーザ認証設定] での設定にリンクしています。[ユーザ認証設定] については**TopAccessガイド**を参照してください。



	項目名	機能説明
1	[保存] ボタン	設定した情報を保存します。
2	[キャンセル] ボタン	設定を中止します。

	項目名	機能説明
3	ユーザ管理情報の共有	<p>他のMFPと同期してユーザ情報を管理する場合に、本機をプライマリMFPとするかセカンダリMFPとするかを設定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 無効：同期しません。 • 有効（プライマリ）：本機をプライマリとして同期します。 • 有効（セカンダリ）：本機をセカンダリとして同期します。 <p>注意</p> <p>[有効（プライマリ）] として設定されているMFPにセカンダリMFPとして登録されているMFPでは、共通アドレス帳の設定が [有効（セカンダリ）] として設定されている場合に、プライマリMFPから共通アドレス帳を同期します。</p>
4	接続タイムアウト	<p>プライマリMFPとセカンダリMFPが接続できない場合に、通信を終了するタイムアウト時間を秒単位で入力します。1～180秒の範囲で設定します。</p>
5	共通設定を使用	<p>[共通設定] 画面で登録したMFPの情報を使用して下記リストを自動更新し（リストは変更できません）。本機自身では [TopAccess] と [同期] ボタンは利用できません。</p>
6	個別設定を使用	<p>下記リストに登録したMFPの情報を使用します。</p>
7	[追加] ボタン	<p>新しいセカンダリMFPを追加します。直下の入力ボックスに同期対象のセカンダリMFPのIPアドレスまたはホスト名を入力し、[追加] ボタンをクリックして登録します。最大10台まで登録できます。</p>
8	[削除] ボタン	<p>セカンダリMFP一覧で選択しているMFPを削除します。</p>
9	[一括同期] ボタン	<p>登録されているすべてのセカンダリMFPの共通アドレス帳を本機の情報に同期します。</p>
10	入力ボックス	<p>セカンダリMFPを登録するときに、IPアドレスまたはホスト名を入力します。</p>
11	サーバーアドレス	<p>登録したMFPのアドレスを表示します。</p>
12	[TopAccess] ボタン	<p>TopAccessを起動します。</p>
13	[同期] ボタン	<p>該当のセカンダリMFPの共通アドレス帳を本機の情報に同期します。</p>
14	[更新日時]	<p>前回の更新日時を表示します。</p>

共有ホーム

共有ホーム設定を変更します。

[共通設定から選択] を選択すると、共通設定で登録した連携MFPの情報を共有できます。

注意

[共通設定を使用] を選択する場合は、[共通設定] 画面でMFPをあらかじめ登録してください。

📖 P.31 「共通設定」

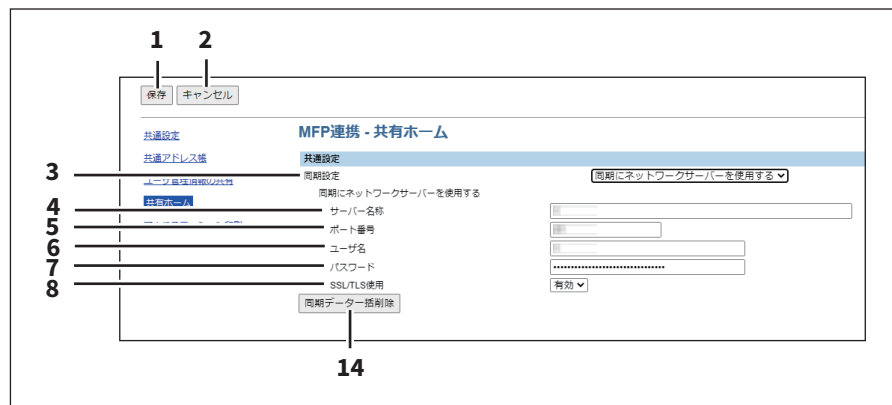
補足

この [共通ホーム] の設定は、[管理者] タブ > [セットアップ] > [一般] > [ホーム設定] での設定とリンクしています。[ホーム設定] についてはTopAccessガイドを参照してください。

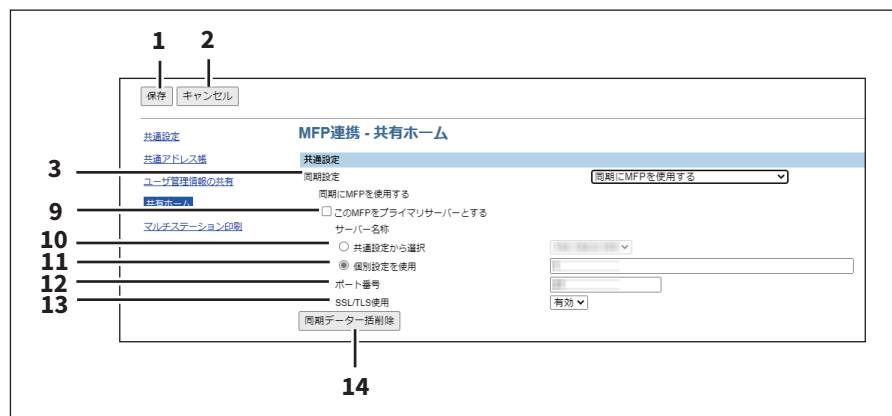
[同期設定] で [無効] を選択した場合



[同期設定] で [同期にネットワークサーバーを使用する] を選択した場合



[同期設定] で [同期にMFPを使用する] を選択した場合



	項目名	機能説明
1	[保存] ボタン	設定した情報を保存します。
2	[キャンセル] ボタン	設定を中止します。

	項目名	機能説明
3	同期設定	<p>[ホーム] 画面をネットワークサーバーまたはほかのMFPと同期するかどうかを設定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 無効：同期しません。 • 同期にネットワークサーバーを使用する：ネットワークサーバーで同期します。 • 同期にMFPを使用する：MFPで同期します。
4	サーバー名称	ネットワークサーバーの名称を入力します。
5	ポート番号	ネットワークサーバーのポート番号を入力します。
6	ユーザ名	ネットワークサーバーにアクセスするユーザ名を入力します。
7	パスワード	ネットワークサーバーにアクセスするユーザのパスワードを入力します。
8	SSL/TLS使用	ネットワークサーバーにアクセスするときに、SSL/TLSを使用するかどうかを設定します。
9	このMFPをプライマリサーバーとする	<p>このMFPをプライマリサーバーとして同期する場合はチェックします。チェックを外すと、その他のMFPをプライマリサーバーとして同期します。</p> <p>注意</p> <p>FTPサーバーが無効の場合は、このMFPをプライマリサーバーに設定できません。</p>
10	共通設定から選択	このMFP以外のその他のMFPをプライマリサーバーとする場合は、[共通設定] 画面で登録したMFPの中からプライマリMFPを選択します。
11	個別設定を使用	このMFP以外のその他のMFPをプライマリサーバーとする場合は、右の入力欄にそのプライマリMFPのIPアドレスを入力して使用します。
12	ポート番号	このMFP以外のその他のMFPをプライマリサーバーとする場合は、そのプライマリサーバーのポート番号を入力します。
13	SSL/TLS使用	このMFP以外のその他のMFPをプライマリサーバーとする場合は、そのプライマリサーバーにアクセスするときに、SSL/TLSを使用するかどうかを設定します。
14	[同期データ一括削除] ボタン	FTPサーバーに保存されている同期データをすべて削除します。

マルチステーション印刷

マルチステーション印刷設定を変更します。

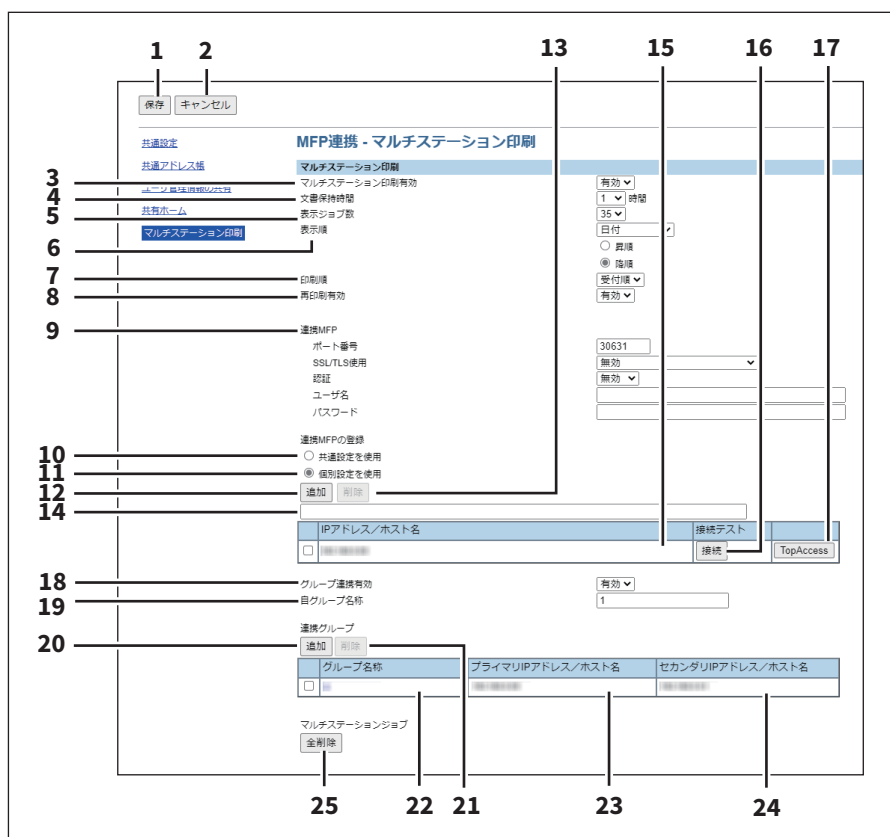
[共通設定を使用] を選択すると、共通設定で登録した連携MFPの情報を共有できます。

注意

- [マルチステーション印刷] 機能を使用するには、マルチステーション印刷オプションが必要です。詳細については、販売店またはサービスエンジニアにお問い合わせください。
- [共通設定を使用] を選択する場合は、[共通設定] 画面でMFPをあらかじめ登録してください。
[P.31 「共通設定」](#)

補足

この [マルチステーション印刷] の設定は、[管理者] タブ > [セットアップ] > [プリントサービス] > [マルチステーション印刷] での設定とリンクしています。[マルチステーション印刷] については [TopAccessガイド](#) を参照してください。



項目名	機能説明
1	[保存] ボタン 設定した情報を保存します。
2	[キャンセル] ボタン 設定を中止します。
3	マルチステーション印刷有効 共有印刷サービス（マルチステーション印刷）の有効／無効を設定します。
4	文書保持時間 印刷ドキュメントの保持時間を設定します。
5	表示ジョブ数 表示するジョブの数を設定します。
6	表示順 表示順を設定します。

	項目名	機能説明
7	印刷順	印刷順を設定します。 補 足 印刷順で [表示順] を選択すると、項目6の [表示順] の設定に従って印刷されます。
8	再印刷有効	再印刷の有効/無効を設定します。
9	連携MFP	マルチステーション印刷を行うには、以下を設定します。 <ul style="list-style-type: none"> • ポート番号：ポート番号を設定します。 • SSL/TLS使用：SSL/TLSを使用してマルチステーション印刷を行うかどうかを設定します。 <ul style="list-style-type: none"> - 無効：SSL/TLSを使用しません。 - 登録されたCA証明書を使用する：連係にはCA証明書を使用します。各MFPの証明書をエクスポートしてすべてのMFPにインポートする必要があります。 - すべての証明書を受け入れる：CA認証を必要とせず、すべての証明書を受け入れます。各MFPの証明書をインポートする必要がありません。 • 認証：認証として [無効] または [Basic] を選択します。初期値は [無効] に設定されています。 • ユーザ名：ユーザ名を設定します。半角英数字と記号 (= ; # ¥ @ を除く) で127文字まで入力できます。 • パスワード：ユーザのパスワードを設定します。半角英数字と記号 (= ; # ¥ を除く) で127文字まで入力できます。 注 意 すべてのMFPで同じ設定にしないと、連係できません。 補 足 [認証] が [無効] の場合でもマルチステーション印刷機能は利用できますが、他機との連携はしません (ジョブリストの共有はしません)。
10	共通設定を使用	[共通設定を使用] 画面で登録したMFPの情報を使用して下記リストを自動更新します (リストは変更できません)。本機自身では [接続] と [TopAccess] ボタンは利用できません。
11	個別設定を使用	下記リストに登録したMFPの情報を使用します。
12	[追加] ボタン	接続機器を登録します。
13	[削除] ボタン	選択した接続機器を削除します。
14	連携MFP入力欄	登録するMFPのIPアドレスまたはホスト名を入力します。 補 足 [連係MFP] リストに複数のアドレスを登録した状態でユーザ認証を無効にした場合は、[連係MFP] の設定は表示されません。
15	サーバーアドレス	登録したMFPのIPアドレスまたはホスト名を表示します。
16	[接続] ボタン	設定したMFPの接続テストを実行し、通信可能かどうかを確認します。 注 意 [接続] ボタンでMFPの接続テストをする前に、マルチステーション印刷の設定を [保存] ボタンで保存してください。

	項目名	機能説明
17	[TopAccess] ボタン	TopAccessを起動します。
18	グループ連携	有効MFPのグループ連携を有効/無効を設定します。初期値は「無効」に設定されています。
19	自グループ名称	<p>自機が属すグループの名称を設定します。最大12文字まで入力できます。</p> <p>注意 すべてのグループが各グループの同じ名前を共有しないと、関係できません。</p>
20	[追加] ボタン	<p>関係するグループをリストに追加します。このボタンをクリックすると、[連携グループ情報の追加] 画面が表示されます。以下を設定して、[保存] をクリックして設定を保存します。リストに追加されたグループ名称をクリックすると、関係グループ情報を編集できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • グループ名称：関係するグループ名を入力します。最大12文字まで入力できます。 • プライマリIPアドレス/ホスト名：関係グループ内の第1（プライマリ）代表機のIPアドレスまたはホスト名を入力します。最大256文字まで入力できます。ここで指定したプライマリ機に最初にアクセスして、ジョブリストを取得します。 • セカンダリIPアドレス/ホスト名：関係グループ内の第2（セカンダリ）代表機のIPアドレスまたはホスト名を入力します。最大256文字まで入力できます。上記プライマリ機にアクセスできなかった場合、次にここで指定したセカンダリ機にアクセスして、ジョブリストを取得します。
21	[削除] ボタン	選択したグループを削除します。
22	グループ名称	追加した連携グループ名が表示されます。
23	プライマリIPアドレス/ホスト名	追加した連携グループ内の第1（プライマリ）代表機のIPアドレスまたはホスト名を表示します。
24	セカンダリIPアドレス/ホスト名	追加した連携グループ内の第2（セカンダリ）代表機のIPアドレスまたはホスト名を表示します。
25	[全削除] ボタン	マルチステーションジョブをすべて削除します。

□ プリントサービス設定

📖 P.40 「USBケーブル印刷の設定」

補 足

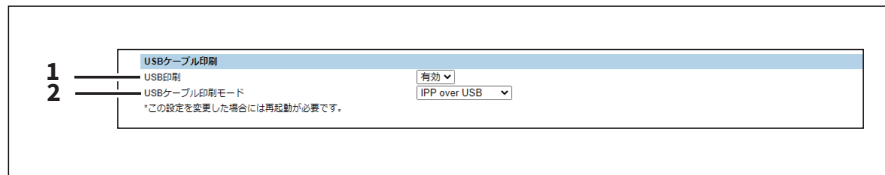
[プリントサービス] サブメニューは、[管理者] タブの [セットアップ] メニューからアクセスできます。アクセス方法は**TopAccessガイド**を参照してください。

[セットアップ] メニューについては、以下を参照してください。

📖 P.20 「[セットアップ] 項目説明一覧」

USBケーブル印刷の設定

USBケーブル印刷有効／無効の設定を追加しました。



	項目名	機能説明
1	USB印刷	USBケーブル印刷の有効／無効を設定します。
2	USBケーブル印刷モード	USB接続による印刷で使用するモードを選択します。 IPP over USB ：通常はこのモードを使用します。 USB（互換性優先） ：弊社複合機をすでにお使いの場合で、導入済みの複合機との互換性を優先する場合に使用します。

□ Off Device Customization Architecture設定

ODCA（Off Device Customization Architecture）は、外部環境のアプリケーションソフトと本機が提供するサービスを連携して使用する場合に設定します。

詳細については、連携するアプリケーションソフトの取扱説明書を参照してください。

📖 P.41 「ネットワーク」

📖 P.41 「環境設定」

📖 P.41 「通知情報イベント」

補 足

[ODCA] サブメニューは、[管理者] タブの [セットアップ] メニューからアクセスできます。アクセス方法は**TopAccessガイド**を参照してください。

[セットアップ] メニューについては、以下を参照してください。

📖 P.20 「[セットアップ] 項目説明一覧」

ネットワーク

SOAP (Simple Object Access Protocol) とREST (REpresentational State Transfer) に分けてネットワークを設定します。

	項目名	機能説明
1	ポートの使用	外部環境から接続を受け付けるかどうかを設定します。
2	ポート番号	外部環境から接続を受け付けるポート番号を設定します。
3	SSL/TLSポートの使用	外部環境から接続する際にSSL/TLSを使用するかどうかを設定します。
4	SSL/TLSポート番号	外部環境から接続を受け付けるSSL/TLSポート番号を設定します。

環境設定

	項目名	機能説明
1	セッションタイムアウト	接続状態を継続する時間を設定します。

通知情報イベント

	項目名	機能説明
1	[全削除] ボタン	外部環境のアプリケーションソフトで登録した通知情報イベントをすべて削除します。

■ [セキュリティ] 項目説明一覧

📖 P.42 「証明書管理」

□ 証明書管理

デバイス証明、クライアント証明などの管理ができます。

📖 P.42 「デバイス証明書」

補 足

[証明書管理] サブメニューは、[管理者] タブの [セキュリティ] メニューからアクセスできます。アクセス方法は**TopAccessガイド**を参照してください。

デバイス証明書

無線LAN、IEEE 802.1X認証、IPsec、またはSSL/TLSを利用した暗号化通信を行うときのデバイス証明書の設定を行います。

	項目名	機能説明
1	自己証明書	お使いの機器からSSL/TLSを利用した暗号化通信の証明書を作成します。 [作成] ボタン：[自己証明書作成] 画面が表示され、証明書に必要な項目を設定して、自己証明書を作成します。 📖 P.44 「[自己証明書作成] 画面」 [エクスポート] ボタン：作成した自己証明書をエクスポートします。
2	インポート	無線LAN、IEEE 802.1X認証、IPsec、またはSSL/TLSを利用した暗号化通信の証明書をインポートします。 [参照] ボタン：証明書ファイルを選択します。 [アップロード] ボタン：選択した証明書ファイルをアップロードします。 [削除] ボタン：登録済みの証明書ファイルを削除します。

	項目名	機能説明
3	SCEP (自動取得)	<p>IPsecまたはSSL/TLSを利用した暗号化通信の証明書を自動取得します。</p> <p>CAサーバーアドレス (プライマリ)：CAサーバーのIPアドレスまたはFQDNを入力します。半角英数字と記号で128文字まで入力できます。</p> <p>CAサーバーアドレス (セカンダリ)：CAサーバーのIPアドレスまたはFQDNを入力します。半角英数字と記号で128文字まで入力できます。</p> <p>証明書内Common NameのMFPアドレス：証明書のCommon Nameに記述する本機のアドレスを、IPアドレスまたはFQDNのどちらにするかを選択します。初期値は [IPアドレス] に設定されています。</p> <p>タイムアウト：CAサーバーが応答しない場合に、通信を終了するタイムアウト時間を入力します。1～120秒の範囲で設定します。初期値は「10」に設定されています。</p> <p>CAチャレンジ：CAチャレンジのパスワードを設定します。半角英数字32文字まで入力できます。はじめてパスワード長を拡張する場合は、最大32英数字を入力する必要があります。</p> <p>SAN：必要に応じてSAN属性を設定します。 で区切り、DNS、IPアドレス、URI、Eメールアドレス、OIDを入力します。DNSは半角英数字と.-で253文字まで入力できます。URIは半角英数字と-._~:/?#!@\$'()*+;=が使用できます。Eメールアドレスは@.を含む必要があります。</p> <p>署名アルゴリズム：署名のアルゴリズムをSHA1かMD5を選択します。</p> <p>ポーリング間隔：ポーリング間隔を設定します。初期値は「1分」に設定されています。</p> <p>ポーリング持続時間：ポーリングを行う時間を設定します。初期値は「8時間」に設定されています。</p> <p>[リクエスト] ボタン：ボタンを押すと証明書をリクエストします。</p> <p>[削除] ボタン：登録済みの証明書を削除します。</p>

【自己証明書作成】画面

	項目名	機能説明
1	[保存] ボタン	自己証明書を保存します。
2	[キャンセル] ボタン	作成を中止します。
3	国/地域名	半角英数字と記号2文字で国名または地域名を入力します。(例：JP)
4	都道府県名	半角英数字と記号で都道府県名を入力します。最大128文字まで入力できます。
5	市区町村名	半角英数字と記号で市区町村名を入力します。最大128文字まで入力できます。
6	組織名	半角英数字と記号で組織名を入力します。最大64文字まで入力できます。
7	部署名	半角英数字と記号で部署名を入力します。最大64文字まで入力できます。
8	一般名	半角英数字と記号で本機のFQDNまたはIPアドレスを名前として入力します。最大64文字まで入力できます。
9	Eメールアドレス	半角英数字と記号でEメールアドレスを入力します。最大64文字まで入力できます。
10	有効期間	自己証明書の有効月数を入力します。

■ 【保守】 項目説明一覧

- 📖 P.45 「レポート通知」
- 📖 P.46 「データバックアップ機能」
- 📖 P.48 「言語設定」
- 📖 P.50 「リモートコマンド」

補 足

[保守] メニューは [管理者] タブから、アクセスポリシーモードで管理権限が設定されているユーザがアクセスできます。
アクセス方法は**TopAccessガイド**を参照してください。

□ レポート通知

📖 P.45 「ジョブ通知情報イベント」

補 足

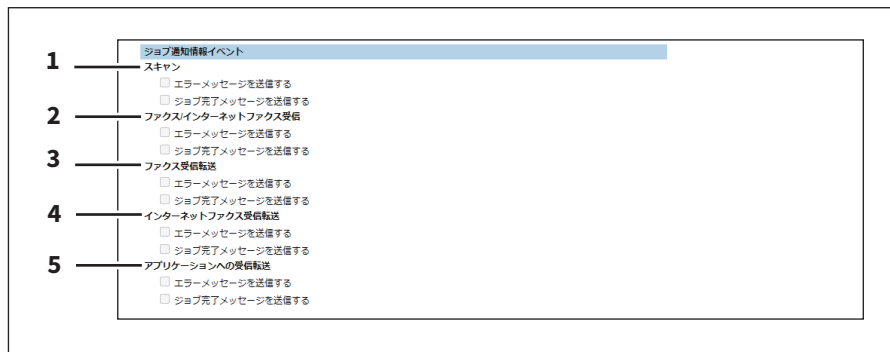
[レポート通知] サブメニューは、[管理者] タブの [保守] メニューからアクセスできます。アクセス方法は**TopAccessガイド**を参照してください。

[保守] メニューについては、以下を参照してください。

📖 P.44 「[保守] 項目説明一覧」

ジョブ通知情報イベント

アプリケーションへの受信転送機能を追加しました。



通知するジョブにチェックを付けます。

	項目名	機能説明
1	スキャン	エラーメッセージを送信する ジョブ完了メッセージを送信する
2	ファクス/インターネット ファクス受信	エラーメッセージを送信する ジョブ完了メッセージを送信する
3	ファクス受信転送	エラーメッセージを送信する ジョブ完了メッセージを送信する
4	インターネットファクス受 信転送	エラーメッセージを送信する ジョブ完了メッセージを送信する
5	アプリケーションへの受信 転送	エラーメッセージを送信する ジョブ完了メッセージを送信する

□ データバックアップ機能

データのバックアップ先に [クラウド] を追加しました。

補 足

[データバックアップ] サブメニューは、[管理者] タブの [保守] メニューからアクセスできます。アクセス方法は[TopAccessガイド](#)を参照してください。

[保守] メニューについては、[以下](#)を参照してください。

[P.44](#) 「[保守] 項目説明一覧」

1 保存

2 データバックアップ機能

3 データバックアップ機能: 有効

データのバックアップに外部サーバーを使用する

プロトコル SMB FTP FTPS クラウド

サーバー名称

コマンドポート

ネットワークパス

ログインユーザ名

パスワード

パスワードの確認

接続テスト 実行

データ自動バックアップ周期: 無効

曜日

時刻 00 : 00

4 バックアップ対象

- MFH設定
- ユーザ管理 (ユーザ、グループ、ロール、割当、部門コード、テンプレート、アドレス帳、プロジェクトコード)
- Fコード
- ホーム設定
- アプリケーション (ライセンス含む)
- ファイリングボックス

	項目名	機能説明
1	保存	データバックアップ機能の設定を保存します。
2	データバックアップ機能	データバックアップ機能を有効にするか設定します。初期値は [有効] に設定されています。

	項目名	機能説明
3	データのバックアップに外部サーバーを使用する	<p>バックアップデータを外部サーバーに保存する場合にオンにします。以下の項目を入力してバックアップデータを保存する外部サーバーを設定します。</p> <p>プロトコル バックアップデータを外部サーバーに保存するときに使用するプロトコルを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • SMB：SMBプロトコルを使用してバックアップデータを外部サーバーに転送します。 • FTP：バックアップデータをFTPサーバーに転送します。 • FTPS：バックアップデータをFTP over SSL/TLSでFTPサーバーに転送します。 • クラウド：バックアップデータをクラウドに転送します。 <p>サーバー名称 プロトコルでFTPを選択した場合は、FTPサーバー名またはIPアドレスを入力します。 半角英数字と記号で64文字まで入力できます。</p> <p>コマンドポート プロトコルでFTPを選択した場合に、コマンド実行に使用するポート番号を入力します。通常は、初期状態で入力された「-」のままにします。「-」にした場合は、ネットワークの設定ページの [FTPクライアント] で設定したポート番号（初期値）が適用されます。初期設定のポート番号とは別のポート番号を指定したい場合のみこの値を変更します。数字と「-」（ハイフン）を使用して、0から65535までの値を入力できます。初期値は「-」に設定されています。</p> <p>ネットワークパス プロトコルにSMBを選択した場合は、ネットワークフォルダーへのネットワークパスを入力します。 プロトコルにFTPを選択した場合は、指定したFTPサーバーのディレクトリを入力します。 半角英数字と記号で128文字まで入力できます。</p> <p>ログインユーザ名 必要に応じて、SMBサーバー、またはFTPサーバーにアクセスするためのログインユーザ名を入力します。プロトコルにFTPを選択した場合、このボックスを空欄にすると、匿名でのログインと判断されます。「<>";」以外の半角英数字と記号で32文字まで入力できます。スペース1文字のみのユーザ名は使えません。</p> <p>パスワード 必要に応じて、SMBサーバー、またはFTPサーバーにアクセスするためのパスワードを入力します。半角英数字と記号、スペースを含み32文字まで入力できます。スペース1文字のみも可能です。</p> <p>パスワードの確認 確認のためにパスワードを再入力します。</p> <p>接続テスト [実行] ボタンをクリックすると、設定したネットワーク設定で接続テストを実行し、通信可能かどうかを確認します。</p> <p>データ自動バックアップ周期 自動バックアップの周期を設定します。無効、毎週、2週ごと、毎月の周期から選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 曜日：自動バックアップを行う曜日を選択します。 • 時刻：自動バックアップを行う時刻を入力します。（24時間表示）
4	バックアップ対象	バックアップを行う対象データを選択します。

□ 言語設定

📖 P.48 「現在の言語パックリスト」

📖 P.49 「カスタムキーボード設定」

補 足

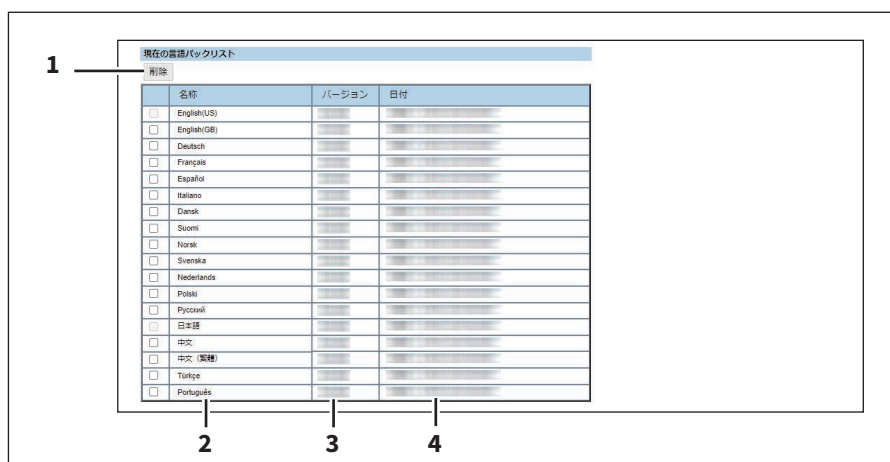
[言語設定] サブメニューは、[管理者] タブの [保守] メニューからアクセスできます。アクセス方法は**TopAccessガイド**を参照してください。

[保守] メニューについては、以下を参照してください。

📖 P.44 「[保守] 項目説明一覧」

現在の言語パックリスト

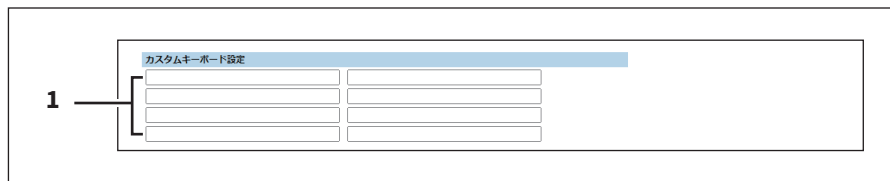
標準でインストールされる言語パックにポルトガル語を追加しました。



	項目名	機能説明
1	[削除] ボタン	不要な言語パックにチェックを付けてから [削除] ボタンをクリックすると削除することができます。 補 足 「English (US)」と [パネル表示言語] で選択している言語の言語パックは削除できません。
2	名前	言語パックの名前を表示します。
3	バージョン	言語パックのバージョンを表示します。
4	日付	言語パックのインストール日を表示します。

カスタムキーボード設定

操作パネルで英語キーボードを使用する場合やEメールアドレスを入力する場合、[ユーザー設定] を選択して特定文字列を簡単に入力できます。8パターンまでの文字列をカスタムキーボードとして登録できます。



	項目名	機能説明
1	(登録欄)	<p>半角英数字および記号64文字までの文字列を8パターンまで登録できます。操作パネル上では、登録と同じ順序で表示されます。</p> <p>注意</p> <p>入力可能な文字数と入力禁止文字は、操作パネル上の入力エリアによって異なります。</p> <ul style="list-style-type: none">• 入力可能な文字数を超えて登録すると、操作パネルは制限を超えた文字を表示せず、ユーザは入力できません。• 入力禁止文字を含む文字列を登録すると、ユーザは操作パネル上でそのパターンを選択できません。

□ リモートコマンド

お使いの機器を遠隔保守するリモートコマンドは、機器の設定や状態に関する情報を取得したり設定を変更したりできます。このリモートコマンドファイルの実行方法を設定し、実行履歴を確認できます。

📖 P.50 「リモートコマンドの適用」

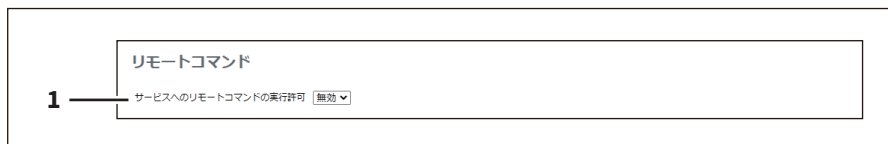
📖 P.51 「リモートコマンドの実行履歴」

補 足

[リモートコマンド] サブメニューは、[管理者] タブの [保守] メニューからアクセスできます。アクセス方法は**TopAccessガイド**を参照してください。

[保守] メニューについては、以下を参照してください。

📖 P.44 「[保守] 項目説明一覧」



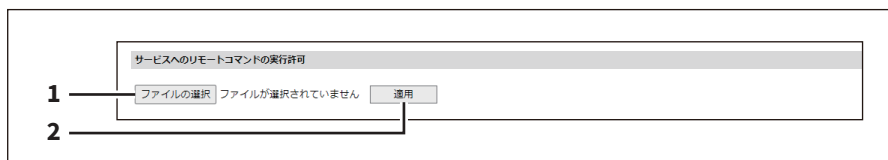
	項目名	機能説明
1	サービスへのリモートコマンドの実行許可	サービスエンジニアによる遠隔保守を許可するかどうかを設定します。 <ul style="list-style-type: none">• 有効：遠隔地からリモートコマンドを実行することを許可します。• 無効：遠隔地からリモートコマンドを実行することを禁止します。

リモートコマンドの適用

遠隔保守ができない場合、リモートコマンドファイルを入手して**TopAccess**から実行できます。

補 足

リモートコマンドファイルについては、販売店またはサービスエンジニアにお問い合わせください。



	項目名	機能説明
1	[ファイルの選択] ボタン	取得したリモートコマンドファイルを選択します。
2	[適用] ボタン	選択したリモートコマンドファイルを実行して、お使いの機器に適用します。リモートコマンドファイルを適用すると、ファイル名、スキーマバージョン、および実行日を表示します。 <ul style="list-style-type: none">• 実行が成功した場合は、結果ファイルをダウンロードするためのリンクを表示しますので、リンクをクリックしてファイルをダウンロードしてください。[OK] をクリックすると、メッセージは消えます。• 機器の設定値が変更された場合は、機器の再起動を促すメッセージが表示します。[OK] をクリックして再起動してください。• 実行が失敗した場合は、メッセージとエラーコードを表示します。エラーコードを記録して、サービスエンジニアにお問い合わせください。

リモートコマンドの実行履歴

実行したリモートコマンドファイルの履歴を3回まで確認できます。

日付	コマンドタイプ	結果	ユーザ	スキーマバージョン	リモートコマンドファイル	リモートコマンドの実行履歴
1	設定値取得	完了	管理者			
2	設定値設定	完了	管理者			
3						

	項目名	機能説明
1	日付	リモートコマンドファイルの実行日時を表示します。
2	コマンドタイプ	リモートコマンドのタイプを表示します。 <ul style="list-style-type: none"> • 設定値取得：機器の設定情報を取得するリモートコマンドを実行したことを表します。 • 設定値設定：機器を設定するリモートコマンドを実行したことを表します。
3	結果	リモートコマンドファイルの実行結果を表示します。 <ul style="list-style-type: none"> • 完了：実行が正常に行われたことを表します。 • 失敗 (エラーコード)：エラーが発生したことを表します。サービスエンジニアに連絡するエラーコードを確認できます。
4	ユーザ	リモートコマンドの実行者を表示します。 <ul style="list-style-type: none"> • Service：サービスエンジニアが遠隔からまたは機器の操作パネルからリモートコマンドを実行したことを表します。 • 管理者：管理者がTopAccessからリモートコマンドを実行したことを表します。
5	スキーマバージョン	リモートコマンドファイルのスキーマバージョンを表示します。
6	リモートコマンドファイル	実行したリモートコマンドファイルの名前を表示します。クリックするとファイルをダウンロードできます。
7	リモートコマンドの実行履歴	実行したリモートコマンドの実行結果を記録したファイルの名前を表示します。クリックすると、ファイルをダウンロードできます。

	項目名	機能説明
1	[アプリケーションのインストール] ボタン	<p>内蔵アプリケーションやシステムアプリケーションをインストールします。</p> <p>このボタンをクリックすると、アプリケーションをインストールするページが表示されます。このページからアプリケーションの配布パッケージのファイル名を指定してインストールすることができます。</p> <p>システムアプリケーションをインストールする場合は、指示に従ってインストールしたいシステムアプリケーションを選択して、使用許諾契約に同意してください。</p> <p>補足</p> <ul style="list-style-type: none"> • アプリケーションをインストールまたは使用すると、使用許諾契約に同意したとみなされます。使用許諾契約に同意できない場合、アプリケーションをアンインストールしてください。 • アプリケーションの配布パッケージはあらかじめ入手してください。 • 複数のアプリケーションパッケージをインストールする場合は、1つずつインストールしてください。 • アプリケーションをインストールする際、フレームワークのバージョンが古い旨のメッセージが表示された場合、本機のシステムをアップデートしてください。詳細については、サービスエンジニアにお問い合わせください。
2	アプリケーションアイコン	アプリケーションのアイコンを表示します。
3	アプリケーション名	アプリケーションの名称を表示します。 アプリケーション名をクリックすると、アプリケーションを設定するページが表示されます。
4	バージョン	アプリケーションのバージョンを表示します。
5	手動操作	<p>アプリケーションの起動/終了操作を手動で行います。</p> <p>アプリケーションパッケージがバックグラウンドアプリケーションを含む場合のみ表示します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 起動：アプリケーションを起動します。 • 終了：アプリケーションを終了します。
6	起動方法	<p>アプリケーションの起動方法を変更します。</p> <p>アプリケーションパッケージがバックグラウンドアプリケーションを含む場合のみ表示します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 自動：MFP起動後およびインストール後にアプリケーションを自動で起動します。 • 手動：アプリケーションを手動で起動します。
7	アンインストール	<p>アプリケーションをアンインストールします。</p> <p>このボタンをクリックすると、アプリケーションをアンインストールするページが表示されアンインストールすることができます。</p>
8	ライセンス	<p>アプリケーションを使用するためのライセンスファイルのインストール状況を表示します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • —：ライセンスファイルのインストールは不要です。 • 無効：ライセンスファイルがインストールされていないため、アプリケーションを使用できません。ライセンスが無効なアプリケーションを使用する場合は、サービスエンジニアにお問い合わせください。 • 有効：ライセンスファイルがインストールされており、アプリケーションを使用できます。
9	特殊機能	特殊機能の詳細については、サービスエンジニアまたは弊社販売店にお問い合わせください。

	項目名	機能説明
10	詳細	<p>アプリケーションの詳細情報や設定項目を表示する画面が開きます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 内蔵アプリケーション起動時に部門認証またはユーザ認証を行うかを、個別のアプリケーションごとに設定できます。[認証] から [有効] を選択して [保存] をクリックすると、そのアプリケーションの起動時に認証画面が表示されます。[無効] を選択して [保存] をクリックすると、認証画面を表示しません。設定を中止するには、[キャンセル] をクリックします。この [認証] 設定は、アプリケーションの次回起動時に有効となります。なお、バックグラウンドで動作する内蔵アプリケーションには表示されません。 • 通信機能を持つ内蔵アプリケーションの場合、外部機器との通信を有効または無効に切り替えることができます。[外部通信許可設定] から [有効] を選択すると内蔵アプリケーションは外部機器と接続可能な状態に、[無効] を選択すると接続不可能な状態になります。設定を変更するには [保存] をクリックし、設定を中止するには [キャンセル] をクリックします。 • [外部USBデバイスの使用] は、内蔵アプリケーションが外部USBデバイスを利用できるかどうかを表示します。 • 受信したファクス画像をアプリケーションが利用できる場合は、[受信原稿の使用] に「使用する」と表示されます。利用できない場合は、この機能について何も表示しません。 <p>補 足</p> <ul style="list-style-type: none"> • 内蔵アプリケーション起動時にユーザ認証を行いたい場合は「機能別ユーザ認証設定」を有効にしてください。 • 認証が必須の内蔵アプリケーションおよび認証設定がない内蔵アプリケーションの場合、[認証] を変更できません。 • 使用許諾契約の表示をクリックすると、使用許諾契約の内容が表示されます。 • 言語は内蔵アプリケーションに言語パックを含む場合、表示されます。
11	システムアプリケーション	本機にインストールされたシステムアプリケーションを表示します。
12	ロールバック	インストールしたシステムアプリケーションを元に戻します。ボタンをクリックすると、確認メッセージが表示されます。指示に従ってボタンをクリックします。
13	詳細	システムアプリケーションの詳細情報や設定項目を表示する画面が開きます。

□ アプリケーション設定

アプリケーション設定、プロキシ設定、デバッグレベルなど、インストール済みのアプリケーション全体に対する設定をします。

- 📖 P.55 「一般」
- 📖 P.56 「内蔵アプリケーション設定」
- 📖 P.56 「プロキシ設定」
- 📖 P.57 「言語パックのインストール」
- 📖 P.57 「アプリケーションデータのインポート」
- 📖 P.58 「アプリケーションデータ」
- 📖 P.58 「使用可能なUSBデバイス一覧」

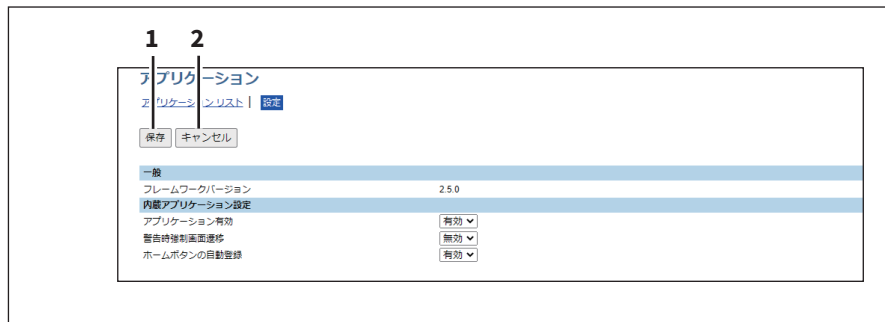
補 足

[アプリケーション設定] サブメニューは、[管理者] タブの [アプリケーション] メニューからアクセスできます。

アクセス方法は**TopAccessガイド**を参照してください。

[アプリケーション] メニューについては、以下を参照してください。

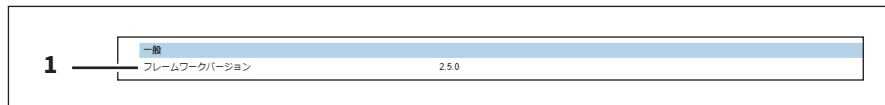
- 📖 P.52 「[アプリケーション] 項目説明一覧」



	項目名	機能説明
1	[保存] ボタン	設定内容の変更を保存します。
2	[キャンセル] ボタン	設定内容の変更を中止します。

一般

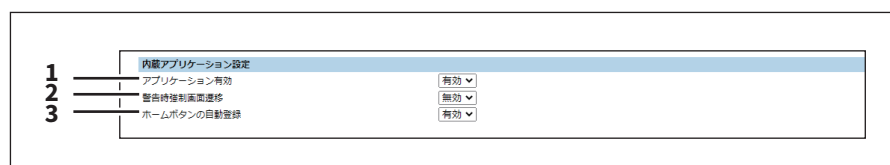
フレームワークのバージョンを確認できます。



	項目名	機能説明
1	フレームワークバージョン	フレームワークバージョンを表示します。

内蔵アプリケーション設定

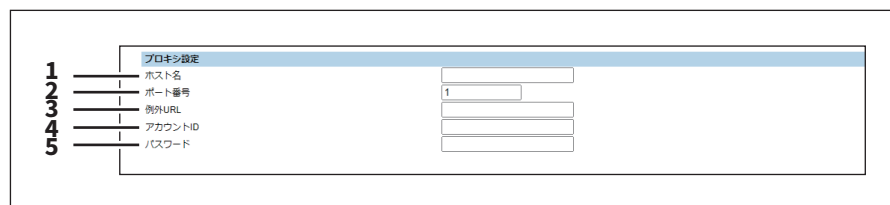
内蔵アプリケーション機能の有効/無効を設定します。



	項目名	機能説明
1	アプリケーション有効	アプリケーションの有効/無効を設定します。 • 有効 ：アプリケーション機能を有効にします。 • 無効 ：[アプリケーションリスト] 画面でアプリケーションのインストール、アンインストール、起動、設定ができません。また、MFPの操作パネルでアプリケーションを起動できません。 補足 システムアプリケーションはこの設定の影響を受けず、常にインストール、ロールバック、設定を行うことができます。
2	警告時強制画面遷移	ホームアプリ実行中に警告が発生した場合、自動的に [状況確認] 画面に遷移させるかを設定します。
3	ホームボタンの自動登録	アプリケーションをインストールしたときに、ホーム画面にアプリケーションのボタンを自動登録するかを設定します。

プロキシ設定

アプリケーション機能のプロキシを設定します。



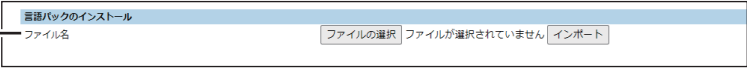
	項目名	機能説明
1	ホスト名	プロキシサーバーのホスト名を入力します。
2	ポート番号	プロキシサーバーのポート番号を入力します。
3	プロキシ設定を使用しないアドレス	プロキシサーバーを利用しないURLをセミコロン (;) で区切って入力します。
4	アカウントID	プロキシサーバーのアカウントIDを入力します。
5	パスワード	プロキシサーバーのパスワードを入力します。

補足

プロキシ設定は、内蔵ブラウザ、待機画面、アプリケーション機能で基本的に同じです。1つの機能で設定を変更すると、その他の機能でも同じ設定に変更されます。

言語パックのインストール

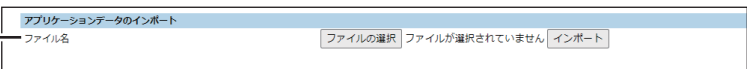
アプリケーションの言語パックをインストールできます。

1 

	項目名	機能説明
1	ファイル名	インストールする言語パックのファイルを選択します。 • 【ファイルの選択】 ボタン ：言語パックのファイルを選択します。 • 【インポート】 ボタン ：選択した言語パックのファイルをインポートします。

アプリケーションデータのインポート

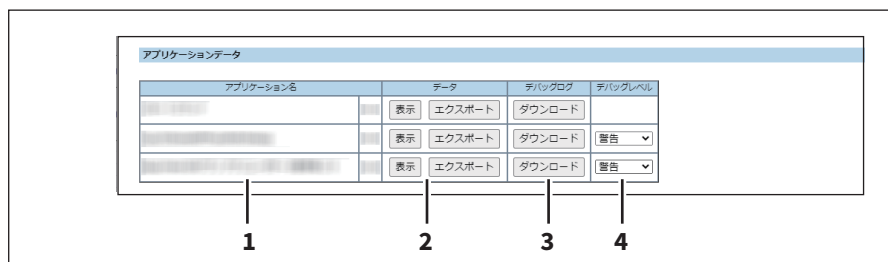
アプリケーションのデータファイルを配信できます。

1 

	項目名	機能説明
1	ファイル名	配信するアプリケーションデータファイルを選択します。 • 【ファイルの選択】 ボタン ：アプリケーションデータファイルを選択します。 • 【インポート】 ボタン ：選択したアプリケーションデータファイルを配信するためにインポートします。

アプリケーションデータ

アプリケーションのデータファイルを取得、閲覧できます。また、アプリケーションのデバッグログを収集できます。



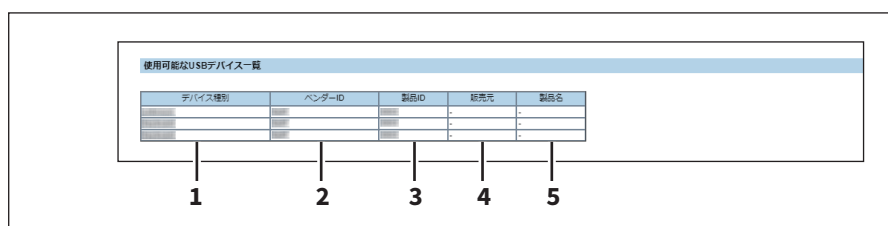
	項目名	機能説明
1	アプリケーション名	アプリケーションの名前を表示します。
2	データ	アプリケーションのデータファイルを取得、閲覧します。 <ul style="list-style-type: none"> • [表示] ボタン：アプリケーションデータファイルの情報を表示します。 • [エクスポート] ボタン：アプリケーションデータファイルをエクスポートします。
3	デバッグログ	アプリケーションのデバッグログファイルを収集します。 [ダウンロード] ボタン ：デバッグログファイルをダウンロードします。
4	デバッグレベル	アプリケーションのデバッグレベルを選択します。[保存] をクリックすると、確認のメッセージが表示されます。

使用可能なUSBデバイス一覧

アプリケーションが利用できる外部USBデバイスの情報を確認できます。

注意

USBハブを接続すると、正常に作動しないことがあります。



	項目名	機能説明
1	デバイス種別	USBデバイスの種別を表示します。
2	ベンダー ID	USBデバイスのベンダー IDを表示します。
3	製品ID	USBデバイスの製品IDを表示します。
4	販売元	USBデバイスの販売元を表示します。
5	製品名	USBデバイスの製品名を表示します。

□ ユーザー拡張情報

アプリケーションのユーザー拡張情報ファイルを表示、削除します。

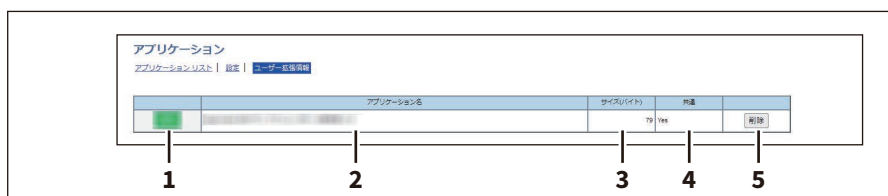
補足

[ユーザー拡張機能] サブメニューは、[管理者] タブの [アプリケーション] メニューからアクセスできます。

アクセス方法は**TopAccessガイド**を参照してください。

[アプリケーション] メニューについては、以下を参照してください。

📖 P.52 [[アプリケーション] 項目説明一覧]



	項目名	機能説明
1	アプリケーションアイコン	アプリケーションのアイコンを表示します。
2	アプリケーション名	アプリケーションの名前を表示します。
3	サイズ (バイト)	ユーザー拡張情報ファイルのサイズ (バイト) を表示します。
4	共通	ユーザー拡張情報には共通情報が含まれているかどうかを表示します。 <ul style="list-style-type: none"> • [Yes] : 共通情報が含まれているので、削除する際に確認メッセージが表示されます。 • [No] : 共通情報は含まれていませんが、削除する際に確認メッセージが表示されます。
5	削除	ユーザー拡張情報ファイルを削除します。

AirPrint機能

TopAccessでAirPrint機能の設定をする

■ セキュリティ証明の期限が切れ、AirPrintが使用できない場合

操作中のmacOS画面に暗号化の資格情報の有効期限切れが表示され、AirPrintでセキュリティ通信（*1または*2）を利用したmacOS AirPrint Print、macOS AirPrint Fax、macOS AirPrint Scanが使用できなくなった場合は、TopAccessで「デバイス証明」の「自己証明書」を再作成してください。詳しくは、以下の参照先をご覧ください。

TopAccessガイド 第8章「[管理者] タブ」 — 「[セキュリティ] 設定／操作方法」 — 「デバイス証明書をインストールする」

*1: IPP印刷使用 : 有効、SSL/TLS使用 : 有効

詳しくは、以下の参照先をご覧ください。

TopAccessガイド 第8章「[管理者] タブ」 — 「[セットアップ] 設定／操作方法」 — 「プリントサービス設定をセットアップする」

*2: セキュアスキャン（SSL/TLS） : 有効

詳しくは、以下の参照先をご覧ください。

AirPrint取扱説明書 第1章「AirPrint機能を使用する」 — 「TopAccessでAirPrint機能の設定をする」 — 「AirPrint機能の有効／無効」

補 足

- iOS AirPrint Printは、使用できます。
- セキュリティ対策の観点から、「自己証明書」の有効期限は13ヵ月を推奨します。
- 新しい「自己証明書」の設定後、1回目のAirPrintを使用したときに表示されるプリント再開のポップアップ画面で、「再開」をクリックしてください。2回目以降、このポップアップ画面は表示されません。

■ AirPrint Faxをお使いいただく際に

ファクス番号には0から9の数字、*、#、-、pが使用できます。-およびpはポーズとして機能、#はトーン切り替えとしても機能します。本機の送信履歴では、pは-で表示されます。


5

トラブルシューティング

機体に関するトラブル

■ こんな画面が表示されたら

本機のタッチパネルには、本機の状態に応じてさまざまな画面が表示されます。ここでは、代表的な不具合の画面表示例と対処のしかたについて説明します。

画面表示	意味／対処
 <p>サービスコール CE20</p> <p>The image shows a service call screen with a wrench icon and a printer illustration. The text 'サービスコール' (Service Call) is at the top left and 'CE20' is at the top right.</p>	<p>サービスエンジニアによる調整が必要です。サービスエンジニアまたは弊社販売店にご連絡ください。</p> <p>その際、画面右上に表示されるエラーコード（C***）を担当者にお知らせください。</p> <p>不具合の発生した場所によっては、[切り離し] ボタンが表示される場合があります。[切り離し] ボタンを押すと、切り離れた機能を除いて複合機を使用できます。切り離れた状態を解除するには、サービスエンジニアによる調整が必要です。</p>
 <p>サービスコール CC71</p> <p>サービスコールが発生しました。 [切り離し] ボタンを押すとMFPを再起動します。 フィニッシャーは使えなくなりますが、MFPは使用できます。</p> <p>切り離し</p> <p>The image shows a service call screen with a wrench icon and a printer illustration. The text 'サービスコール' (Service Call) is at the top left and 'CC71' is at the top right. A message box contains the text: 'サービスコールが発生しました。 [切り離し] ボタンを押すとMFPを再起動します。 フィニッシャーは使えなくなりますが、MFPは使用できます。' Below the message box is a button labeled '切り離し' (Disconnect).</p>	<p>警告</p> <p>分解・改造・修理はしないこと 感電・火災・けがの原因となります。 動作不良・故障時はサービスエンジニアまたは弊社販売店へご連絡ください。</p>
 <p>コピー</p> <p>コピーできます</p> <p>The image shows a copy screen with various options. Two red circles highlight the 'cp' icons. The text 'コピー' (Copy) is at the top left. Below it is 'コピーできます' (Copyable). The screen shows various copy settings like '100% 原稿 → 用紙', '拡大・縮小', '両面モード', etc. At the bottom, there is a status bar that says 'フィニッシャーは使えません(切り離し中)' (Finishing is unavailable (disconnected)).</p>	<p>マークが表示されているオプションの機能は、使用できません。オプションを切り離れた状態を解除するには、サービスエンジニアによる調整が必要です。</p>

■ タッチパネルのメッセージ一覧

画面上部のメッセージ表示エリアに、不具合の発生などをお知らせするメッセージが表示されることがあります。以下の表では、代表的なメッセージの意味と対処のしかたを説明しています。

メッセージ	意味	対処のしかた
トナーカートリッジが空になる前に交換されました。交換前のカートリッジが使用できません。カートリッジを元に戻しますか？	トナーが完全になくなる前にトナーカートリッジが交換されました。(カラー機の場合、「」に対象の色が表示されます。) (複数の色のトナーがなくなった場合は、色の名前が以下の略称で表示されます。 Y: 黄、M: マゼンタ、C: シアン、K: 黒)	取り外したトナーカートリッジを元に戻してください。手元がない場合は、サービスエンジニアにお問い合わせください。

索引

A		
AirPrint機能	61, 65
B		
Bonjourの設定	26
E		
ECM (G3)	11
M		
MFP連携	30
O		
Off Device Customization Architecture設定	40
S		
SMBの設定	21
T		
TopAccess	9, 19
U		
USB印刷	15
USBケーブル印刷	15
USBケーブル印刷の設定	40
USBケーブル印刷モード	15
あ		
アドレス帳の表示	8
アプリケーション項目説明一覧	52
アプリケーション設定	55
アプリケーションデータ	58
アプリケーションデータのインポート	57
アプリケーションへの受信転送設定	28
アプリケーションリスト	52
い		
一般	55
一般設定	20
か		
解像度	10
カスタムキーボード設定	49
環境設定	41
かんたんスキャン	8
管理者 タブ	20
管理者設定	12, 16
き		
機器設定	12
機密受信強制設定	11
共通アドレス帳	32
共通設定	31
共有ホーム	35
く		
グループタブ初期表示形式	11
け		
原稿モード	10
言語設定	48
言語バックのインストール	57
こ		
個人用タブ初期表示形式	11
し		
自己証明書作成画面	44
システム設定リスト (管理者)	17
受信速度制限	11
受信元登録 (G3)	11
使用可能なUSBデバイス一覧	58
証明書管理	42
初期アドレス帳	11
ジョブスキップ設定	13
ジョブ制御を設定する	13
ジョブ設定	20
ジョブ通知情報イベント	45
せ		
セキュリティ項目説明一覧	42
セットアップ項目説明一覧	20
そ		
送信品質改善	11
送信方法	10
送信元記録 (G3)	11
即時ジョブスキップ	13
ち		
中断要因解除後の動作	13
調査用ログデータの取得を許可する	15
つ		
通知情報イベント	41
て		
データバックアップ機能	46
デバイス証明書	42
な		
内蔵アプリケーション設定	56
ね		
ネットワーク	41
ネットワーク設定	21
の		
濃度	10
ひ		
表示言語を追加/削除する	12
ふ		
ファイル形式の設定	8
ファクス設定	8, 10, 28
複数宛先送信前確認	11
プリントサービス設定	40
プレビュー設定	11
プロキシ設定	56
付録	16
ほ		
ホーム画面	7
保守項目説明一覧	44
ボックス設定	

（アプリケーションへの受信転送設定）	29
ま	
マルチステーション印刷	37
も	
文字入力画面	16
文字入力のしかた	16
ゆ	
ユーザー拡張情報	59
ユーザ管理情報の共有	33
ユーザ設定	10
り	
リスト印字	17
リスト形式の表示内容	11
リモートコマンド	50
リモートコマンドの実行履歴	51
リモートコマンドの適用	50
リモート操作設定（VNC）	27
れ	
レポート通知	45
ろ	
ログイン時ジョブ所有者のみ再開	13

FC-2010AC
FC-2515AC/3515AC/4515AC/5015AC
DP-2518A/3518A/4518A/5018A
FC-5516AC/6516AC/7516AC
DP-6518A/8518A
OMJ210070A0

東芝デジタル複合機

最新機能説明書

e-STUDIO2010AC

e-STUDIO2515AC/3515AC/4515AC/5015AC

e-STUDIO2518A/3518A/4518A/5018A

e-STUDIO5516AC/6516AC/7516AC

e-STUDIO6518A/8518A

東芝テック株式会社

